



ギヤラリーー60



日記

kajiya

お休みの一日

今日当館はお休みです。開館日は毎週火木土日です。休みがとても多いためやっているのか休んでいるのか分からないため、今日も雨の中数人の方が見えました。

今展示しているものは、書、ちぎり絵です。横浜の女性の方の作品です。書は漢字です。作品点数は30点です。開催期間は5月30日までです。

場所は、天竜区の上野です。

開館時間は10時から4時まで。ぜひ見にきてください。

(2010年5月19日)

廃墟、廃屋に思うこと

こんばんわ、今日もギャラリーはお休みでした。昨日は開館していましたが、なぜかとても疲れて何もする気になれず、ブログどころではありませんでした。今日はいつものペースに戻れました。

昨日は元市議会議員が見えました。ちょうど昼時だったので他に来館者が見えなかったため、しばらく話ことができました。私は廃屋、廃墟を見たり尋ねたりするのが好きです。廃屋はそれぞれに感じるものがあります。特にほどほどに古いものが好きです。どんな廃屋も物語ってくれます。廃屋を外から眺めたり屋内に入ったりしながら、いろいろと想像ができます。話はちょっとずれますが、秋野不矩の廃墟の作品（インドの）はとてもいい、まさに廃墟です。見ているだけで物語ってくれます。

(2010年5月21日)

掛け軸落下事件

今日はとんだハプニングがありました、お昼前、花に水をやってギャラリー内にある生け花にも水をやろうと中に入ったところ、掛け軸が落ちていました。よく見ると紙が破れていました。びっくりして出品者に電話しましたが、不在のため当人のお姉さんに電話しまして事情を話したところ、「テープでも張っておけばいいよ」なんて言われました。私は呆気にとられながらも、ともかく片付けなければと、その掛け軸を片付けました。とんだハプニングでした。

当ギャラリーは浜松市天竜区の山間・上野（カミノと読みます）という地区にあります。浜松の中心部より20キロのところ国道152号線を北に走ってきますと天竜川に差し掛かります。天竜川を渡らず県道9号線に取って北西方面に向かいます。鹿島の橋から6キロほどで下阿多古郵便局、そして農協、その辺りから300メートルのところにあります。県道沿いでライトグリーンの建物です。進行方向右側です。左は阿多古川です。

(2010年5月22日)

まあ組織というものは・・・

まあなんと言いましょうか、組織というものはなんと煩わしいものか。

というのは当ギャラリーの6月の準備をしているわけですが、客先との打ち合わせにもとずき案内状を作ったのでフアックスしたところ、色がわからないから現品を届ける旨の指示がありました。私に言わせれば案内状の色なんて大したことじゃないし、少しくらい色合いが違っていても同てことないと思うのですが、ところがどっこいそうはいかないのが組織というものでありまして、責任者の了解がないと一向に前に進まないわけです。

よって当ギャラリーの次月の案内状も停滞したまま、いつになれば皆さんにお届けできるのかさっぱり予定が立ちません。組織相手の取り組みはこの先はちょっと考えなければなりません。

(2010年5月24日)

こんな楽しい交流を求めて

今日の午後、浜松の南区の方がご兄弟と一緒に見えました。私は他の来客の相手をしていました。しばらくして先客は帰りましたので、後の方にちょっと声をかけ失礼しようとしたところ呼び止められました。そして作者と私の関係を訪ねられたりして言葉を交わしているうちに、何か親近感を感じるようになりました。

その方は午前中に1人で来られてとてもいい感じであったので、自宅に帰りその様子を話したところ兄夫婦が行きたいということで再びやってきたようです。いま展示していますのは、書とちぎり絵です。書は漢字で大物が比較的多く展示されています。その書を眺めながら3人でいろいろ言葉を交わしていました。そして私にこの作者はとても優しく繊細な人では、と聞かれました。わたしが「そのとおりです。なぜそんなことがわかるのですか？」と尋ねると、すべて字体に出ています、良く眺めていると感じるものが出てきます、とのことでした。

その方は作者の体型まで言い当てました。また数点、詩、画、絵を展示してあるのを見て、読んで声を詰まらせた感じで「泣けちゃうね、こんなの読むと」。そこには、母の日に贈ったカーネーションの絵に添えて「お母さんの子に生まれてよかった」と書かれていました。

(2010年5月25日)

45年ぶりの出会い（その1）

今回の展示もあと2日となりました。今日は6名の方が見えました。私は雑事に追われていたため来館者と会うことはできませんでした。片付けをしていると昔の富山の置き薬の箱が3戸出てきました。珍しいのでちょっと手を止めて薬箱のシールを眺めたり箱の状態を見ましたところ、1つの箱が少し重いので引出しを開けると、中には手紙が入っていました。

手に取って見るとそれは40数年前のものでした。当時高校生のもので文通をしていた山形の女性のものでした。その方とはたぶん中学の頃から約4年近く文通をしました。ずっと前に手紙は処分したはずでしたが残っていたわけです。私は誰にも見られないようにすぐにその箱を別置きしました。

そして晩方、宝物を開けるような心持で1通の封筒を取り出しました。10円切手には山形のある町の郵便局の消印がしっかりと押されていました。消印には昭和40年11月の日付が読めます。45年ぶりの再会です。封筒から便箋を取り出し懐かしい文字と出会いました。きわめて達筆で流れるように書かれた文字は、私の記憶を呼び戻すには何の時間も要りませんでした。便箋はなにも傷んだところもなく、また古い紙の匂いもありませんでした。続きは明日。

（2010年5月27日）

45年ぶりの出会い（その2）

私は便箋をゆっくりと開きました。便箋は3枚ありました。そして一気に読みました。読み終わりしばらく一点を見つめ大きく息をしました。そしてまた便箋を眺め懐かしい文字を見つめました。17歳とは思えないしっかりとした文字でした。便箋は花柄の模様が入ったしゃれたものでした。そして今度はゆっくりと読み直しました。文は初めと終わりにはもう雪が降って寒いとか学校の様子が少し書かれていました、そして本文は生きがいについてびっしりと書かれていました。生きがいとは何、生きるための励み、生きたいと思う気持ち、心、本能とは違うもの、欲望、欲求、生きがいもわからないで毎日を生きてるなんて・・・などが書かれていました。

私は啞然としました、この何十年も生きがいなんて考えた事ありませんでした。あの当時のほうが生きることに真剣だったかもしれません。いずれにしてもこのような内容のことをやり取りしたと言うことは私の生きることに関する考え方、あるいは取り組んできたことになにがしかの影響があったのかもしれない、と思うと・・・私は日の暮れたギャラリーの部屋の中で電気もつけず、ときおり車が走り去る音を聞きながら、ボーとした時間を過ごしました。手紙はまだ20通ほどあります。

（2010年5月29日）

書、ちぎり絵展最終日

5月展示最終日、横浜から作者が見えました。最終日というのに朝から来館者が見え作者は昼食もそこそこに対応されていました。書の注文もあったようです。4時ぴったりまで話をされていました。そして片付けの準備になかなか手がかず、私が明日梱包することにしました。

前回の展示最終日も同じような感じでした。期間が1か月と長いので作者との関係が強くなったり、作品との関係も同様な感じになるものです。まあちょっとおセンチな感じになるのも悪くもないが、いずれにしても作者、作品、来館者、そして私。この関係が終わるといことが何とも言えないものです。このたびも作者、作品を通じていろいろな方とお会いでき様々な体験を得ることができました。こうしたことは私にとって何物にも代えがたい貴重なものです。いままでは私と関係のある方の展示をお願いしてきたわけですが、来月からはそのような関係とも終わりになります。よって来月が改めてのスタートになるのかもしれませんが。楽しい投稿を期待してください。

(2010年5月30日)

かいだるい一日

作品の梱包をしました。とにかく面倒で今回の作品は全体的に大物が多かったため、見るのはいいけど片付けが大変です。横浜まで安全に届けなければなりません。よって梱包をしっかりとしないと。それにしても、とにかく面倒でさっぱり進まずイライラしていると、まだ展示をやっているのかと間違え知り合いがやって来ました。そして遠路わざわざ来たのだから見たいというので、しょうがなく泣きそうな顔をして、せっかく梱包をしたいちばん大きな作品を開いて見せました。その作品を見てしばらくあれこれ言っていました。結局午前中はほとんどできず午後はますますかいだるくなってしまい、ラジオで歌を聞いたりしたのでまたまた遅れてしまい、結局すべてはできませんでした。特に絵はガラスの額に入っているので余計に神経を使います。いずれにしてもまた明日ということです。

しかし今度の展示はかなりのピンチです。まだ案内状も整備途中だし、ポスターも看板も中途半端になってスタートには全く間に合いません。しばらくの間はお客さんはないかもしれません。いまさらジタバタしたところでどうしようもありません。遅らせながら予定を立てて進めていくだけです。いずれにしてもとても忙しく、余裕時間がとれるようにちょっと軌道修正を考えます。

(2010年5月31日)

まあなんて言いますか

6月展示の案内を届けようと、このたびはちょっと手を省いて公的なところに届けることにしました。

まず近くの小学校に行きました。事務員がすぐに教員を呼びに行きました。しばらくすると体格のいい男の30代くらいの人が、挨拶もしたのかと思うような感じで目の前に現われました。名刺を渡し丁寧に挨拶をし、出向いた内容を話しました。が、聞いているような聞いていないような反応が全くない感じで、早々に引き揚げました。よくよく思い返せば、相手の名前も聞いていないしどうなってるのっていう感じでした。

次に区役所の社会福祉課に行きました。40代くらいの女の人が愛想もなく、何よっ、ていう感じで面倒な対応でした。パンフレットを渡し福祉関係の団体の資料をほしかったので要求すると、ありません、と一言でかたづけられそうになりました。が、私はそのような資料のあることを確認して行ったので、あるように聞いている旨を伝えると、誰に聞いたのか、とか、どこで調べたのか、とそんなことを言うだけで一向にらちがあかないのです。それで、ちょっと強めに言うと、他の人を連れてきて、そんな資料ないよねえ、と無いことを同調させるべく話をしていましたが、その人はすぐに私の要求したものを目の前に持ってきました。女の人はどこかに行ってしまいました。いずれにしても小学校と言い福祉課といい、なんともはや、しっかりしてよ、とまたまた感じました。公的なところに行く時は事前確認を十分していかないと丸めこまれます。

(2010年6月1日)

展示切り替え

昨日、6月の新しい展示に切り替えました。6月は私の当初の目当てでありました、身体的に事情をお持ちの方の作品の展示です。ある大きな施設のみなさんの作品です。専門の画家の先生の指導によって絵画療法も取り入れ、力を入れている施設です。昨日はその先生とスタッフ合わせて5名で1日ばかりで展示をされました。

私はその方々が帰られてからじっくりと見ました。一見してすごいと感じました。まさにプロの展示でした。正直言って頭が下がりました。私の展示館が一変しました。見違えるような感じです。こんなにさせていただいたのではとても悠長にはしていただけないと思いました。できるだけ多くのみなさんに見ていただかなければもったいないと思いました。本当によかったと心から感じました。この1か月またまた楽しい毎日になりそうです。ただちょっと忙しくなることがちょっと気になりますが・・・。

(2010年6月3日)

6月展示初日

6月展示初日であったが、全く来館者は見えません。初回、前回と、初日は時間前から見えたりして大変なにぎわいだったのに、このたびは人影さえも見えません。まあいいかな、と思い花に水をやっていると、60半ばと思われる男の人がサイクリング自転車でやってきました。私は水をやり続けていました。その人はここは展示館ですかと問いかけ中に入って行きました。水をやりながらこのたびは来館者にメッセージを書いていただくようになっているので、あわててノートとペンを用意して持っていくと、すでにその人は帰る用意をしていました。私はそのまま何も言わずに水をやり始めました。

昼前、小さな子供を連れた女の人が来ました。この度のタイトルは宝石箱展です。女の方は宝石の展示と間違え、外にいた私に指輪もありますか、と言いました。宝石箱展の説明をしていると突然子供が泣き出し、結局その人は中にも入らず帰ってしまいました。この度はまだ1枚も案内状を出してないし、こんな田舎では飛び込みで来る人は極めて少ないのはしかたありません。

午後から案内状の準備をしようとしていると、50前半くらいの男の人が来て、これは子供の絵だね、小学校かね、と尋ねられました。私はこの絵の中には描いた人の心の葛藤、強い願い、気持ちが入っている、心を病んでいる人たちの作品です、といろいろな例をあげたりして説明しました。その人はとても感心して私に、絵の先生だけあって見る目がすごいね、今日は来てよかった、良かった、と言って喜んで帰りました。私は絵の先生ではありません。ただの高齢者予備軍です、と伝えました。

(2010年6月3日)

授産施設訪問

6月展示初日の入館者があまりにも寂しかったので、宣伝に授産所等を訪問しました。まず近くからと思い、車で15分くらいの施設を訪ねました。数回訪問したことがあるのですがすぐに玄関を探そうとしましたが、いつも行くたびに、とても古い建物で、もう壊れそうな感じのところもあります。床はガサガサでスリッパを履いていても引っかかりそうな感じです。夏も冬も大変だと思います。それでも中で働く皆さんは一生懸命に働いています。

私が、こんにちわ、と言うと3人の人が飛び出てきて挨拶をしてくれました。入れ替わりいろいろな人が私を見に来たりして少し戸惑いました。中のスタッフの女の人が出てきたので名前を告げると、知ってます、知ってます、とニコニコして挨拶をしてくれました。私は初対面でしたのでなぜ知っているのかと少し首をかしげると、新聞で見ました、場所も知っています、と言ってくれました。私はニコニコしながら展示会の説明と、来ていただきたい旨の話をしました。その人はみなさんにも伝えると気持ちよく言ってくれました。私は大喜びで帰りました。

続いて公民館を訪ねました。同じような話をすると、こちらでは公的な催しのパンフレットは預かれるが、このような事は相談しないと何とも今は言えない、とか何とか煮え切れないので、他の同施設では皆パンフレットを置いてくれましたよ、と言うと、じゃあ同じようにします、とパンフレットを預かってくれました。公的なところは何とも勿体ぶったりして、煮え切らないものです。すべてとは言いませんが・・・。

(2010年6月4日)

個性派3名来館

昼前個性派が見える。初めての来館である。私は面識はあったので比較的気軽に話をしたり聞いたりしていました。その方はじっくり展事品を見終わった後、イスに座り込み先生の絵について質問をされました。私は答えられる範囲で話しました。いろいろ話をしたのち。芸術家は貧乏の方がいいものが表現できる、もっと泥臭い絵の方が質が出る、そう先生に伝えてくれ。そう言って帰りました。

午後85歳になるという男の人がやってきました。新聞で見たとのことでした。その方はこのたびの先生の若い頃を知っていて訪ねたようです。書道家で禅画を描かれるようで今年も発表会をやったとのことでした。展示館内に入ってすぐに椅子に座り先生の当時の話をしたり、禅画の話をしたりしていて、一向に展示品には目もくれませんでした。せっかく見えたのだから1つくらい見てもらおうと、この作品は一番新しく力が入ったものですよ、と指をさして説明をしましたが全く腰を上げることはありませんでした。そのうちに次の方が見えたので帰られました。

そして3番目の個性派が見えました。夫婦で見えました。とても立派な方で、農業をやっています。とても見かけによらず繊細な感じのところがあり感性に沿って生きられている感じがしました。話はとても広く、そしてきわめて深いものでした。初対面なので細かいところはわかりませんが、きわめて人生を謳歌している感じでした。仕事、余暇、交友、時間など、それぞれ自分のペースでやっているような感じでした。

(2010年6月5日)

6月の展示品案内

6月展示最初の日曜日。出足は悪く午前中は1名の来館でありました。午後になって今までのペースになりました。今日は来館者と展示品をじっくりと鑑賞しました。展示品は共同作品が3点、そして個人作品が17点です。共同作品は浜松城と公園を描いたもの。そして昨年フラワーパークで開催されたモザイカルチャー博、それから自然の野原を描いたものです。

それぞれとてももののびのびと比較的自由に描かれています。色合いもきわめて鮮やかで目に映える感じです。ただ共同展示の難しいところでしょうが、ポイントが見当たりません。他のそれぞれの作品は草花と富士山が描かれています。全体的に無難に仕上がっている感じです。無難だけにちょっとインパクトに欠ける感じです。このたびのような作者は、とんでもない発想でドカンと驚くような作品が時々ありますが、このたびはありません。しかし、それぞれのびのびと比較的大胆に描かれています。そして色合いもとても鮮やかで、まあ満足に近いものもあります。

私が気に入ったのは鬼ゆりを描いた作品です。鬼ゆりは私は知りませんが、絵を見ていると想像されてきます。特に花の茎がとても力強く描かれていて、作者の心がそこにあるような感じがします。茎は太くそしてでこぼこしていて、またまっすぐでなく上に伸び花をつけています。まさに鬼ゆりです。作者はどんな方が、知りたい感じです。きっと優しい方でしょうが、心は厳しいものを持たれているのかな。

(2010年6月6日)

ギャラリー所在地紹介（パート1）

ギャラリーとはいうものを不審に思われている方もおありかもと思ひまして、少しづつ正体をご案内してみようかなと思ひます。

今日はギャラリーの所在地をご紹介します。浜松市なんですが、つい最近までは天竜市でした。例の市町村合併で浜松市となりました。政令都市ですので一応天竜区と住所はなっていますが、実際は浜松の中心部より20数キロ北にあります。天竜川に注ぐ阿多古川に沿って地域が形成されています。山と川に囲まれた極めて静かな山村です。まさに過疎地そのもので、地域内には小さな駄菓子屋はありますが日用品のそろっているような店はありません。病院もありません。学校は小学校と幼稚園はありますが中学校は廃校となりました。

私のギャラリーの近くに中学校があったのですが、今はほったらかしの状態です。住人は必然として年寄り世帯が多く子供の声はほとんど聞こえることはありません。車は時々通りますが人間はあまり見掛けることはありません。私のギャラリーの前は川になっています。そしてその向こうは竹藪、そしてその向こうは山になっています。山の高さは200メートル以上あります。そんな山が目の前にあるためテレビは映りませんよって、皆さんと共同ではるかかなたにアンテナを立て、それで何とかテレビが映っています。バスは走っていますが1時間に1本弱のため、一度乗り遅れたりすると大変です。いずれにしてもこんな田舎です。

（2010年6月8日）

ギャラリー所在地紹介（パート2）

所在地をもう少しご紹介します。

何しろ山間僻地ですのでこれといって特徴ありませんが、無理やり引っ張りだすとすれば、お茶、シイタケなど山の産物はそこそこあります。しばらく前までは専業農家もありましたが、外国産に押されて今はさっぱりです。また困ることに少しの作物をサルとかイノシシがよく出て食べ荒らします。サルやイノシシのために畑の作物を作っているようなものです。

目の前を流れる川は日本名水の1つになっているようですが、魚もほとんどいません。いまはアユを放流するので、夏から秋にかけてはアユ釣りはできます。しかし川遊びの人たちが比較的多くやってくるので、昼間はなかなかアユ釣りどころではありません。山は杉の木がほとんどです。春初めからスギ花粉が風が吹くたびにパァと舞い上がり黄色の煙が舞い上がる感じです。それでも花粉症の人はあまりいません。もちろん働くようなところはありませので、どうしても若者は出ていくようです。人々はちょっとした畑や田などで少々の野菜などを作り日々を送っています。まだこの地域は比較的浜松圏内に入るので何とか生計も成り立つわけですが、まだまだずっとずっと北の果てまで、長野県、愛知県境まで浜松市となっていますので、そうした見方からするとこのあたりは開けているほうかもしれません。

（2010年6月9日）

ギャラリー所在地紹介（パート3）

なんせ思い付きで書いているものですから、翌日読み返したりするとアジャーで感じでこりゃなんですかとか思うことがたびたびで、このたびの所在地案内にしても全く案内には程遠いものです。2日にわたって書いたものの中身は乏しく情けない限りです。いままでの内容を読み返したところ全くいいことが書かれていませんので、今日は少しくらい良いことを書かないと、と思ひまして・・・。

そんなわけで良いところですが、人間関係的ですが、街でもなくそれといってすごく田舎でもないためかお互いの気遣いは深くもなく浅くもないという感じです。また近所のお付き合いもほどほどに深くもなく浅くもないため、お互いに比較的気楽に過ごせます。しかしながしの事情が発生した場合はお互いに協力することができます。縦社会はまあ長老は立てますが重要な事例が発生した場合は体制の意見に沿った対応となります。飲んだり食べたりのお付き合いはほとんどありません。まあ総じて人間関係はのんきなものです。生活は比較的地味でお互い競い合うことは全くと言ってありません。それぞれの実力の範囲内の生活をしています。よって私もへらへらしながらボチボチやっているのです。

（2010年6月10日）

今夜は大変

今日はギャラリーは休みです。前から髪の毛が気になっていたのが午前中に床屋に行きました。空いていたのですぐできました。床屋で困るのは眼鏡をはずすので鏡が全く見えず長さ加減がわからないため、家に来て見てびっくりということがたびたびあります。このたびもそんなことを気にしながらいざ床屋に行くと余り要求もせずにおまかせ、とか言って大丈夫かな、なんて思いながらやってもらいます。床屋の旦那が、鏡で頭の後ろとか襟足絵を写したりしてくれますが全く見えないので、いいよいいよとか言ってまあ終わるわけですよ。

うちに帰り、今日もすぐに鏡の前に立ち仕上がり具合を眺めましたが、帽子をかぶって来たため帽子の跡がついてぺこりとへこんでいるため、状態がよくわかりませんでした。長さ加減はいいかなと思います。そして私は白髪が多いため髪を染めています。ややうすい茶色に染めています。その作業を今夜風呂に入る前にやります。これが大変です。自分でやるわけですし当然眼鏡をはずすので全く、カン、でやることになります。しばらく前までは私の奥さんのような人にやってもらっていましたが、ものすごくものすごくそそっかしいため染め粉を肌につけられたり、まだら模様染められたりして笑い物になったようなこともあって、それで自分でやるようになりました。本当は床屋でやってもらいたいのですが、染めるとなるととても時間がかかりその間にトイレに行きたくなってしまふとまた煩わしくなるし、とにかくすぐやって、すぐ終わりにしたいものですから。そんなわけで今夜はどんなふうになるか今から面倒くさく感じますが、多少色気もあったりして、白髪頭でいることはできません。

(2010年6月11日)

大忙しの土曜日

梅雨が近づいているのか蒸し暑い一日でした。毎週土曜日は私は大忙しの1日となっています。毎日家事をやっていますが、特に土曜日は家事予定を多くしてあります。いつも時計とにらめっこをしながら予定を進めています。

しかしギャラリーを始めてからは全く予定もへちまもなくなってしまったため、しばらく前から、ギャラリーの入口に、御用の方は電話を下さい、とメモ書きを掲示して私の予定に重きを置いた対応をしてきましたが、今日はちょっとそのようにはいきませんでした。開館前からすでに来館者が待っていたためあわてて鍵を開けました。すいませんどうぞごゆっくり、と言って戻ろうとしたのですが、朝から暑い日差しによって館内は蒸し暑く、ごゆっくりどころではありません。さすがの私もこの環境の状態では知らんぶりもできず、館内が正常になるまで来館者の相手をせずには居られません。

展示品の紹介をしたりしているうちにまた次の方が見えました。その方は比較的近くの方でした。私は初対面でしたが、何か波長があっているいろいろな話をすることができました。女の人でおそらく60に近いか少し過ぎているように思われます。話を聞くと人が寄ってくるようなことをやってみたいといろいろな考えあっちこちいろいろ見て回ったり話を聞いたりしているようです。私に対しても非常に興味を持っていただき、いろいろ尋ねられました。話の中でとても勢いがある力強く何か押されっぱなしであったりしましたが、私に応援のメッセージをもらったりして気分は悪くありませんでした。特に近くに住まれているため力強くも感じたものです。こんな風にして少しづつ私のギャラリーも広がり定着していくのかな、と思いました。まあそれにしては予定は狂いっぱなしで予定の最後の洗濯を終えたのはすでに5時を回ってしまいました。

(2010年6月12日)

おだやかな一日

まあほどほどに自分のこともできたし、来館者との話もそれなりにでき、そしてハプニングもあった楽しい一日でした。

午後展示館の入口付近にあるプランターに植えた花の手入れをしていましたところ、元議員の方が見えました。私は花の手入れをしていたので中に入ることを勧め、ごゆっくりどうぞ、といつもの自分勝手な言葉を投げて花を摘んでいました。そしたら大きな毛虫を手でつかんでしまい、大声をうっかりあげてしまいました。ウアー……。

中から元議員の方が飛び出してきました。どうしたんですか。私は放り投げた毛虫を指さして、毛虫……、毛虫、と大きな声で言いました。その方はスリッパで外に飛び出し、毛虫を見て、ワー、ワー、と同じように大きな声で言いました。私は呆気にとられて、その方を見ていました。その方は毛虫を見て、大きい、大きい、どこにいたのですか、私は大嫌いですが、どこで見つけたのですか、と私をにらめるような感じで言いました。私はこの花についていたことを話しました。そしてその方は、プランターにまだ必ずいるからと入口から遠避けるように言いました。展示館の中に入ってくるかもしれないとか言って……。私は言われるようにそのプランターを遠くに離しました。そしてその方と館内に入り毛虫の話を書きました。

その方は何度か毛虫に刺された事がある、とても刺されたところがはれて大変な目に会ったこととか、あるところで毛虫の大群に会って毛虫の上を歩くようなことがあったとか、いろいろ話されました。結局絵の話は全くなく帰られました。まいった、マイッタ！

(2010年6月13日)

和尚さんを訪ねる

新しい展示作品を探しにあるお寺を訪ねました。そのお寺の住職はある施設に勤めていて大変な信用のある方です。初めて訪ねたお寺はとても立派な建物で、私はその建物に興味を持ちしばらく建物周りを眺め、時代背景や建物の装飾を見て感心したりしていました。そのうちにお寺の関係の方が私を見つけ中に入ることを進めていただきましたが、あまり時間もないため失礼して住職に会いたい旨を伝えました。

じきに住職が玄関から現われました。初対面なので丁寧なあいさつをして訪ねたわけを話しました。住職はとてもラフな感じでちょっと黒目のガラスの眼鏡を掛けられ、少しガムの匂いをさせながら、きわめて気さくな話し方でいろいろと持ち得る情報を話してくれました。

私もとても気楽になり思うことを次々と話しました。新しく展示に結び付く具体的なところまでは進みませんでした。少し時間をかけてみれば案外展開するかもしれません。まあ今日は肩慣らしということで、また機会を見てしっかり時間をとり訪ねようと思います。このたびもギャラリーのおかげでいろいろな話ができることにもあります。よって今日は楽しく良い一日でした。

(2010年6月14日)

ギャラリーほったらかし

今日は家を壊すための作業をしました。いま住んでいる家の裏に100年くらい前に建てられた古いうちがあります。今のところなにも不都合はないのですが東海沖地震などが来ると倒れる可能性が高いので、それと隣に比較的接近していて隣はまだ新品の家のため、万が一倒れて隣のうちにでもよさりかかったりしたら大変と前から気になっていたので、取り払うことにしました。

作業は機械が入るようなところではないので近くの人にお願ひしました。そんなわけで手伝いをするわけです。よってギャラリーどころではありません。

ただ、休むわけにもいきませんので10時の休みになったので、かぎを開けておこうとギャラリーに行ったところ、さっそく来館者が見えました。私は、マイッタなーと思いながら挨拶をしました。何しろ服装が作業をするための服装なので、どこかのとんでもないような親父の感じの服装です。来館者は、どうなってんの、っていう感じで私を見ているようでした。私は念のため服装のわけを話しました。来館者は少し薄笑いをしていました。ひととおりの説明をして失礼をしようとしたところ、いろいろ質問を受けました。いつ頃から始めたのかとか、何を書くのかとか、始めたきっかけなど質問され、とどのつまりは10時の一服もできずに解体作業をまた始めました。

(2010年6月15日)

ど疲れた一日

毎週水曜日はある大きな病院の情報室の管理人をやっています。よってギャラリーは休みです。情報室とは患者さんのためのいろいろな情報を得るための書籍、インターネット、ビデオ、コピー機など、さまざまなものがあります。貸出もできます。そのもろもろの管理をします。いつもいろいろな方が見えます。それぞれになにがしかの重いものを持たれている方が多いように思います。もうしばらくその部屋にいますので、患者さんと話をするのもよくあります。今日も60歳代半ばと思われる男の方が話しかけてきました。その方はよく見えるので知っていますが、話をするのは初めてです。なんとなくとっつきにくい感じがあたりしばらく前クレームをいただいたりしたこともあったりして、なんとなく距離を感じたりしていましたが、まさか話しかけてくれるなんて思ってもいませんでしたのでうれしく感じました。

目を悪くしてパソコンのキーボードの文字が見えないとか、本も余り読めないなど、見えにくいことについての話を突然されました。私も目が悪いので車の運転も止めパソコンも音声化してあるので本も毎日読んでもらっていると、そのソフトについてしばらく話しました。その方はさっそくインターネットで調べメモをして帰られました。いい事を聞いた、いいことを聞いた、退院したらすぐ検討するなどと言っていました。見かけは恐そうでとても堅物そうな感じの方でしたが、話をするとても気さくで声もやや高め、優しい感じでした。

(2010年6月16日)

土壁壊し

今日もギャラリーはほったらかしです。もし作者がこの状態を知ったとするとびっくり仰天でしょうが、今はこのたびの古い家壊しを手伝うしかありません。よって今日も家壊しです。

今日は土壁を壊しました。金鍬のようなもので力任せに壁を叩きます。壁は、ガサーと落ちますが全ては落ちません。中に竹で編んだ格子状のものが壁一面に張り巡らされているため、その竹を取り除かないことにはどうにもなりません。100年もの間大した痛みもなくしっかりと保たれていた壁は思うように簡単に崩れることはありませんでした。鍬で力任せに叩いたところでどうにもならず、やむなくのこぎりで竹を切ることにしました。その竹は全くしっかりしていて腐りもなく竹独特の粘りもしっかりあって切ることも大変でした。何しろ竹の数がものすごく多いためとにかく難儀しました。

土の量も半端ではなく2階部分の土の量と言ったらものすごく、それよりも埃が並ではありません。息をすることも苦しくなるほどで土壁の匂いは埃の匂いそのものです。今日はかなり土を吸い込んだことと思います。こんなに土を大量に使っていれば居住性はいいのかな・・・と思いました。しかし100年という年月はものすごいことですが、この壁と中の竹それと竹を止めてある縄等はとてもしっかりしていて100年の歳月を感じるものではありませんでした。まあ色々なことがあったのですが、この家もお役目も済んだということです。御苦労さまと思いました。

(2010年6月17日)

写真撮影

今日は次回展示作品の案内状に載せる写真撮影に作者宅を訪問しました。何しろ家の解体作業の合間を見てさっさと行ってさっさと帰らないといけないのです。

昼休みに行きました。すでに何度も訪問しているので快く出迎えてくれました。写真撮影の話をして家の中に入りました。天気が悪く雨模様だったりで、うまく映るか心配でたくさん撮影をしました。

来月は水墨画です。作者はもう88歳になられる方です。ちょうど米寿になるのでその辺をうまくアピールできるといいと話しました、作品は殆ど大型サイズでいちばん大きなものは横2メートル近くもあります。どのようにして展示しようかとも思いますが、家に帰るとすぐに忘れてしまいます。おそらく当座になってあふたふたすることと思われます。行き当たりばったりの自分ですのでどうするか自分ながら見ものです。

作品はアルプス連峰の雪を抱いた山々とか激流の川を描いたものが多く見受けられます。とてもスケールが大きく見栄えがあります。おそらく作者は自由気ままな生き方をされてきたのではと思います。

写真撮影はすぐに終わりましたが絵を見ながら思うことがあるのでしょ、いろいろと話をされて、しばらくの時間を過ごしました。家に帰ると、もう間もなく昼休みの時間が終わりになるころでした、大急ぎで昼飯をかき込んでまた解体作業を始めました。雨が強くなって、もうずぶ濡れになって散々でした。

(2010年6月18日)

鍼灸院にて治療

日記を2日休みました。腰とひじを痛めて夜もうまく眠れずバンやむえず。何しろ家の解体作業は大変で、とにかく重いものばかりで、それとその重い木とか土とか石を解体現場から運び出すわけですが、とても狭いところを通らなければならないため運び出すには手で持ち出すしか方法がありません。その作業を私がやるわけです。重いものを持って行ったり来たりの繰り返しです。よって私はへとへとになって板につまずきひっくり返り肘を石垣にぶつけ動けないほどの痛みを感じしばらくその場所に寝ていました。そのうちに少し痛みが和らいできたのでまた作業を始めましたが、肘をかばうため今度は腰に負担がかかり、夜になって痛み出しとても眠れるどころではありませんでした。

朝になるのを待って鍼灸院に飛び込みました。その鍼灸院はずっとお世話になっているため何も言わなくても感じていただけるほど、先生の感受性は高く非常に安心できます。今日も私の歩くかっこうを見て大体のことはわかったようです。すぐに治療を始めていただきました。

針とお灸で痛みを取り除いていきますが、良くなるまで治療を続けるため今日も2時間半程かかりました。困ることは途中でトイレに行きたくなることです。今日も途中でトイレをもようしたためトイレに行ったわけですが、何しろ針がお腹あたりに入った状態で行くので半分裸状態であります。次の患者さんの待つところにトイレがあるため、もし女の人でもいたらと非常に気を遣います。先生はその辺りは無頓着なので、少しあたふたしたりしてトイレをすごく我慢したりしていると切羽詰まって行くことになり、トイレに飛び込むようなはめになります。

(2010年6月21日)

三島に行く

ギャラリーを休みにしました。何となく抵抗はあったのですが、まあいいかなと思い三島に行くことにしました。といっても遊びではありません。医者に行くのです。もう20年以上行っているのです。漢方医で当初は東京の巣鴨に行っていたのですが、都合でやめられ三島の漢方医を紹介していただいたということです。目が悪いのですが何しろ治す手段がなかなか無いようで、こうして漢方をやっているわけです。

三島には2か月に1度の割合で行きます。気分転換を含めて行きます。先生は何時も何かと気を遣ってくれます。今日はギャラリーを始めた話をしました。先生はとても喜んで励ましてくれました。そして今の世の中のひずみについて話をしてくれました。余りにも荒んだ社会になってしまったこの現状を嘆いていました。若者に未来が見えない社会なんてありえないとか、私も同感で、つい診察の手を止めっぱなしでしばらく話をしました。私はとてもいい感じになりました。先生はおそらくもう80歳に近いと思われませんが、その意気込みには圧倒されました。

帰り新幹線の中で駅弁の寿司を食べました。三島名物かどうか知りませんが何とか寿司です。電車が走り出すのを待ち兼ねるように弁当のふたを開け中にあった御手拭きを使うのも後回しにしてとにかく寿司を早く食べたいのいっしんで箸を運びました。最初に箸をつけたのが寿司ではなく何だかわからず棒状のウインナーくらいの太さのもの。それが弁当箱の一番下にあったのでそれを口に運びました。何だかわからず何度か噛んでいるうちに、それは生のワサビであることが口の中が証明してくれました。口の中は火の海になりました。吐き出すわけにもいかずただひたすら耐え、火が消えるのをじっと待つと飲み込みました。とんでもないことで、弁当箱の中をよく見ると、ワサビを摺って使うように道具も入っていました。まあなんともはや、とんでもない弁当でした。

(2010年6月22日)

次月展示準備

今日は水曜日、いつもの病院のお手伝いです。珍しく定刻より少し早めに入ることができました。今までほとんど遅刻で、遅刻が当たり前になってしまっていました。珍しいことです。

しかし今日は次月展示品の看板作りをやりました。私のいる部屋はパソコン、プリンター、コピー機などがそろっているためとても都合がよく、ギャラリーを始めてからずっと利用させてもらっています。よって看板作りをしました。原紙を拡大したり色合わせをしたりで大忙しです。とても患者さんとは話をしている時間も無いほどに忙しく作業をしました。午前中に何とかできました。

朝のうちは大雨でしたが、いつの間にか薄日が差し込んでいたので帰りに作者の家によって作品を受け取りました。何せこのたびは大物ばかりで横の長さが2メートルもあるものが5点もあります。トラックの荷台にいっぱいです。その下が1.3メートルくらいで小ぶりでも1メートル近くあります。全部で12点でした。

どのように展示をしたらいいのかとても気になります。それに重いので落としたりしたら大変です。少し時間があるのでよく考えなければ。それと案内状も作らなければなりません、一応見本を本人のところに届けてあり、絵の写真を印刷してあるのですがカメラのフラッシュの明かりが入ってしまっているのと部屋のカーテンが絵のガラスに映っていて、そのことを本人は気にしていました。私はあまり気にもなりませんので印刷したわけですが……。気になる人は気になるのでしょう。でも案内状を受け取った人はそんなによく見ることもないから大丈夫ですよ、と言って本人を納得させようとしています。本当のところは、また写真を撮ったりして作り直すのが面倒だし時間もないので、なんとしてもこれで承諾を取らなければと考えています。

(2010年6月23日)

演奏会に行く

ギャラリーは臨時休業です。午後から浜松のアクトシティに友達3人で合唱団のコンサートに行きました。このコンサートはもう十何年も続けていっているので年間行事のようなものです。いつも気遣いすることがあって友達に迷惑をかけています。今回もそうでした。それは演奏会の前にトイレに行っておかないと安心できないのです。よって今回もトイレに行きました。まず電車に乗る前に1回、電車を降りてまた1回、会場に入って1回。計3度も1時間ほどの間に行きました。これでやっと安心して音楽が楽しめます。

演奏会は年々充実しています。今回もいろいろ工夫を凝らした演奏でした。団員が交代でタンバリンをたたいたり笛を吹いたりで、まあ眠気予防になりました。ゲストがあってパイプオルガンの演奏者が何曲かひきました。パイプオルガンは久しぶりに聴く新鮮味もありよかった。全体的には2時間の演奏が中だるみない内容で良かったと思います。

ただ団員の服装がいつものように黒と白の服装で女性は休憩の後ピンクのドレスに着替えましたが、まあそれはほど目につくこともありません。演奏曲からして、そうかしこまるほどのこともないのではと思います。童謡、民謡、ポピュラー、抒情歌等です、思いきってジーパントとかミニスカートとかもいいかも。それとただ突っ立て居るだけでなくある程度アクションもあっていいんじゃないかなと思いました。

演奏会を終えてさっそくトイレに行って、ラーメンとビールをガブーツと飲んで、気持ちよく帰りました。
(2010年6月26日)

展示の切り替え

実は今日、今までの作者が来て写生をすると勘違いしていました。それは昨日でして、それも天気が悪かったので取りやめになったわけです。どこで狂ったのかわかりませんが、そんなわけで今日は展示品の切り替えです。

前回の展示がとても工夫を凝らしてあったので取り外すこともなかなか思うようにいかず、かなりの時間を要してしまいました、布を画鋏であっちこっち止めてあったり、大きな画用紙を壁一面に止めてあったり。まあとにかく取り外しは面倒で、最初は丁寧にやっていたのですが午後になって気温もばか高くなったりして面倒くさくなり、ガバー、っていう感じで、もうむしり取るように外しました、おかげで結構早く取り外すことができました。

そして今月の展示品を適当に並べてみましたところ、とにかく大き過ぎて重くて一人ではとても持ち上げることが難しいものもあって、途中でもう嫌になってしまいました。とにかく暑くて暑くて、とてもやる気も出ません。まだ明日があるので急ぐこともないかな、などと勝手に思いやめました。

しばらく前に買ってきた花の苗がまだほったらかしにしてあったので、その花をプランターに植えました。しかしそのプランターも今までの花が枯れかけていたりで、その花を切ったり引っこ抜いたりしているうちに汗がぼたぼた落ちてきて、こりゃとてもじゃあない、感じになってきました。とにかく暑すぎて体が全く動かない感じで、花植えも途中でやめました。

涼みにでもと思い、農協にお金をおろしに行きました。窓口の女の人が定期を進めてくれましたが、私は貧乏真っ只中ですから自殺寸前です、と言うと、あっそうですか、とわけのわからん返事をしました。

(2010年6月28日)

ギャラリー紹介と本日のお客様

しばらくのご無沙汰でしたので、簡単にギャラリーの紹介などを何回かに分けて行いたいと思います。できれば写真なども紹介したいのですが、写真添付方法がわかりませんので今しばらくお時間をいただいて習得したのちはバカバカ掲載したいと思います。

まずはギャラリーの場所を紹介しましょう。住所は浜松市の天竜区にあります。天竜区は浜松市の中で全くのお荷物地域です。山と川と山とまた山となっていて、山と川以外は何の特徴もありません。広さは広大で愛知県から長野県そして静岡市の近く大井川の本川根町まで、とんでもない広さであります。しかし人口はとても少なく三万数千人であります。

ギャラリーはそれでも何とかこの天竜区の中心よりにあります。全国100名川のひとつ阿多古川と県道9号線天龍飯田線に面した街道沿いにあります。浜松市の中心部より20キロほどの位置になります。夏は川遊び客、春秋は山菜採りから紅葉めぐりなどで比較的人の往来は多いかなと思います。しかし飛び込みのお客さんはほとんどありませんし、地域においてもあまり関心具合もありません。『何かやっているようだな』って言う感じで、寄っていく近隣のお客さんもあまり多くはありません。『まあ少しづつ地道に進めて行けばいいかな』と思っています。

今日の来館者は7名でした。元市議会議長の奥さんが終わりがけに見えました。私は初めて話をしました。かなりのお歳になられるのですが、とてもしっかりされていて話にもとても中身のある話され方でした。展示品もとてもよく見られ、それぞれ感想を述べられ感心しました。それなりの方だと感じました。

展示館の中は花がほどほどに生けられて、とても華やかです。特に蠟梅の花の匂いがとてもいい感じです。正月にととても似合う穏やかな花です。

(2011年1月20日)

今日は休館日です。御葬式ができたので支度をしていると、突然来館者らしい車が現れました。何かと目を凝らすと、それは天龍新聞社の方でした。本年初めて顔を合わせました。どこからかこのたびの展示を聞かれたようで、わざわざお出でたわけです。

私は葬式の支度もそこそこに館内を案内しました。作品展示者の活躍の様子とか作品の内容などをシャツを着直したりネクタイを締めたりしながら話しました。そのうちにこのごろ話題になっているタイガーマスクの話になり、民主党の管総理の話と続き、内閣改造から与謝野大臣のこと、また消費税と話が盛り上がり、気がつくともうすぐ葬式の始まる時間でした。びっくりしてあわてて葬式の会場に向かいました。

目が悪いのでいくらあわてても走り回ることもできず、普通の人歩くスピードが私のハイスピードになります。気ばかり焦ってさっぱり進みません。やっとの思いで斎場につきました。平静を装って受付を済ませ落ち着く場所を探しながら誰がどこにいるのか、あたりにいる人はだれなのかよくわからないため頭をやたら下げたりして大変でした。

何とかことを終え帰って着替えをしていると、コートに洗濯屋の札が付いていました。コリャーマイッタ。おそらく襟もとから飛び出っていて、その札が丸見えだったことを想像すると、びっくり仰天です。

(2011年1月21日)

森林公園森の家に食事に行く

今日はとても温かく気持ちのいい天気でした。昼ご飯を近くの公園のレストランに行くことにしました。近くと言っても5キロメートルほどのところにあります。県立の森林公園になっていて一体は天竜奥三河国定公園になっています。

私はよく通るところですからあまり感じることもありませんが、ゆっくり散歩でもするととても自然が豊かでそれなりに整備もされていていい感じになります。何しろ広さが並ではありません。とても1日ではすべて回りきれません。そしてほどほどに起伏もあって、公園内には体験の施設とか、展示施設などいくつかの施設があります。レストランもその一つです。

そんなことで友達を誘っていくことにしました。しかし誘ってから車がないことに気がつきました。あるのは軽トラックだけです。私の愛用者です。それには2人しか乗れません。いまさらになって車が無いなどとも言えないし……。いろいろ考えてもいい方法はありません。とにかく行くしかありません。

友達の家に向かいながらふと考えが浮かびました。3人無理やり乗せてしまおう。ということで乗ってもらいました。結構うまく乗れてレストランに着くことができました。

レストランは珍しく結構混んでいました。注文をして、ろくでもない話をしたりしていると、隣の席でビールで乾杯などしてグビッと飲んでいる。このまま食事だけではどうも調子が出ないと思いビールを頼みました。私だけ飲みました。もう1本飲みたいと思いましたがやめて食事をしました。

帰る頃になって、だれが運転するのということになりました。わたしはビールを飲んでしまっているのを代わりを頼むと、2人とも免許を持ってこなかったということで、とてもシラーツとした感じになりました。結果的に飲酒より不携帯のほうがいいということで、運転を代わってもらい帰りました。皆マイッタ、マイッタという感じが顔に現われていました。私はビールの勢いか、なぜか笑えてばかりいました。

(2010年1月23日)

昨夜は死にそうだった

昨夜、風呂から出るとふらふらしてうまく歩けない状態でした。風呂酔いでもなくなぜか突然のことでした。たまーにそのようなこともあります。風呂の後は初めてでした。いつもはじきに治るので昨夜もそのうち治るだろうと思い横になっていました。夜中の12時を過ぎ立ち上がって様子を見ましたが全く治るどころではありません。とにかく寝るしかないのもたまたま布団にもぐり込みじっとこらえていました。ところが心臓がドキドキし始め胸の上に手を置くとそれは波のようにバクバクと手のひらに感じました。これはいかん。

と深呼吸呼吸などを行っているうちにますます動悸は激しくなり、うねりのように胸が波打ちました。そして手足がしびれ始め足は異常に熱くなってきました。死ぬのかな、と思いました。

私は目が悪くそれも進行性でやがて見えなくなってしまうかもしれません。見えなくなる前に死んでしまおうと思ひ私の寿命は70歳くらいと思っています。今62歳ですからあと8年です。8年くらいはなんとか目の具合も持ってくれるのかなと思ったりして……。生活設計も70歳を見据えて3年刻みくらいで進めています。よって今のギャラリーも3年できればいい、と考えています。

話は戻りますが、そんなことで死んでもいい、と頭の中にいつもあるので、このような状態になってもあまりあわてることはありません。ただ思うことは、死んでしまふとなにがしかの迷惑を他人にかけてしまうことが気がかりです。できるだけお世話になることを少なくしたい、と思うわけです。そして波風も少なくいつの間にか忘れ去られてしまえばいいだけです。

心臓は相変わらずバクバク手足はびりびり。何かしておくことは、と思いました。携帯電話に人に見られるとよからぬ推測をされそうな写真とかメールがあることを思いました。あれは消したほうがいい、とすぐ思いました。暗闇の中手探りで携帯を探し出し布団にもぐった状態で15点ぐらいのものを一つづ消しました。消すたびに、ピー、ピー・となりました。全て消し終わりこれでOKと思ひ再び布団に深くもぐり込むといつの間にか寝入ってしまいました。そして朝をいつものように迎えました。

昨夜はなんだっのか。携帯を眺めながら私にとっては大切なものが全て消されてしまったことが残念で仕方ありませんでした。

(2011年1月25日)

車のカギを紛失

全くマイッタ。実は私は目が悪いため車の運転を2年前頃からやめています。その代わりに私がちょっとした下請け稼業をしていた時の運転手に1日おきに来てもらい、私の足となっていただいています。その方はずっと前に車の事故をやって頭を損傷し、その後遺症がかなり残っています。一番の問題はすぐに忘れてしまうことです。よって車の運転はできるのですが道路や行先はすぐに忘れるため、私がカーナビとなって指示を出します。しかし私も目が悪く道路標識など比較的近くに行かないとわからないためよく間違えることがあります。よって道路標識などが目に入るとその方に読んでもらい、それで判断をしたりします。とにかく都合よくいかないことが多くイライラの連続です。二人で0.7人前って言ったところです。

今日も大変でした。用を足して車に戻ると運転手がポケットをガサガサやって一向に車のドアを開ける気配がないので、なんだ、と聞くとカギがないと言う。今日は3月の展示をしていただく方の家を訪問するので時間を約束してありました。いくらガサガサやってもカギは出てきません。とても寒い中居場所もなくただ運転手に対して、悪口を繰り返していました。今まで歩いたところを見て来るように伝え、私は寒空の下でうろうろしてひたすら待つのみでした。通りがかりの人がどうしたのかと声をかけてくれたりしましたが、もう怒れているのでその優しさも上の空でイライラ、ブツブツでした。そのうちに運転手が帰って来たので、カギのことを聞くとポケットにあった、と言って、やれやれなんて暢気なことを言っていました。私も全くやれやれで、それ以上怒る気にもなれずホッとしました。とにかく寒かった。

(2011年1月26日)

溝に落ちる

今日は2月の展示会の案内状を配りに行きました。最初に公民館に行きました。いつものようにあまり反応もなく大した交わす言葉もなく早々に引き揚げました。いつもこんな感じなので改めての感想ありません。

続いて小学校に行きました。1度うかがっているのですがこのたびもどうか、って感じで寄って見ました。玄関がよくわからないのでうろうろしていると少し若い感じの男の先生が声をかけてくれました。展示会の案内状の話をする、校長がいるから会われたら、と言ってくれました。私はびっくりして大喜びでお願いしました。玄関の方に案内されるとき、目が悪いので、と言うとゆっくりと歩きながら玄関まで案内をしていただきました。玄関に入ると校長室に案内する旨の話をしていただきましたが、私は失礼があつては、と玄関で校長先生を待ちました。

すぐに先生は現われました。ジャージ姿で比較的若い感じの女の先生でした。私が描いた校長像と余りにも違うため少しめらめら感じました。とてもさわやかなそして綺麗な方でいい感じでした。丁寧に名刺と案内状を渡しました。そうすると先生は今年の8月にすでに来ていただいていた。いろいろ当時のことを思い出しながら話をさせていただきました。しばらく話をさせていただき失礼をしました。玄関を出ようとする、と先ほどの男の先生が校門まで送ってくれました。とても私は嬉しく有り難く本当に心より喜びました。

そして数か所案内状を配り、最後のお寺に行きました。この寺は初めてです。車から降りてもさっぱり入り道がわからずうろうろして何とか探し出しました。寺の中に入る道に沿って小川があったり溝があったりととても歩くのに心配です。川にでも落ちると大騒ぎです。足で方向を探りながらゆっくりと寺の中に歩みを進めました。ところ突然片足の置き場がなくなり強い衝撃が腰と膝と手の甲に響き渡り、眼鏡がすっ飛び、帽子もすっ飛び、一瞬何だかわかりませんでした。すぐに溝に落ちたことがわかりました。50センチ程度の深さの溝でしたが、もう衝撃が体中に感じ、それよりなにより眼鏡と帽子がわかりません。何とか車を見つけ運転手を呼びました。運転手はすぐに眼鏡と帽子を見つけてくれました。

手のひらは皮が破れ血が出ています。手にしていた名刺と案内状は引き裂かれ無残なものです。ズボンをめくりあげるとひざから血が滲み出ていました。私はズボンが破れていないか心配で運転手に調べさせました。何とか大丈夫でした。手のひらの血をふいたりしながら運転手に入つ当たりしました。溝に落ちるのを見ていたのかとか、道をなぜ教えなかったのか、見ていて笑ってたのかなど、ブツブツとしばらく言い続けました。

こんなケチがついたのではもう帰ろうと思いましたが、気を取り直し再度案内状などを用意し、運転手の先導で寺に何とか届けることができました。車に戻ると運転手が傷に貼るテープをくれました。ありがとうございました。

(2011年1月27日)

三島に行く

三島に行きました。漢方医に2か月に1度くらい行きます。何せ目が悪く今のところ治す方法がないとのことで、まあしょうがないので良さそうなことをしているわけです。もう20何年か前に診断されて、それから漢方中心の治療をお願いしています。地元では鍼灸院でお世話になっています。自分では気功をやっています。そしてこの三島の漢方医の煎じ薬をいただいて一日おきに煎じて飲んでいきます。まあお陰で診断を受けて20何年かも何とかやってこられたのは、こうした漢方のお陰かなと思っています。診断を受けた時は5年も持てばいいような感じでしたから。今でこそだいぶ不自由になってしまいましたが、でも何とか1人で今日も行くことができるのだから、お陰さまだと自分に言い聞かせています。そんなわけで三島なんです。

先生はいつも診断を終わると自分の思いを少し話してくれます。今日は日本の地方の荒廃した山、畑、そして田。日本の政策のかじ取りを大きく間違えてしまった、と言っていました。皆都会に出てしまっただけで田舎暮らしはお金持ちしかできない。どこにもいけない年寄りが残され、この先ただ荒れ狂うのを待つだけの社会になっていると。

私も田舎暮らしなのでこの先を考えると全く見通しは立ちません。なるようになるだけと言ってみたくて、今だからそんなことが言えるのですが、高齢になったとき今のような言い方は絶対できません。しかし何の解決策もありません。いまさらになってお金を稼ぐなんてこともできないし。まいてしまいます。もやもやして病院を後にしました。

薬をいただきに薬局に寄るとこざい女性がとても親切に対応してくれました。薬局に入る時も出る時も戸を開け閉めしてくれたり、とてもいい感じでした。新幹線に乗るといつものようにビールを飲みました。そして寿司を食べながら、雪いっぱいの富士山を見ながら帰ってきました。

(2011年2月4日)

『かがやき』作品展

2月の展覧会が始まりました。展示者は浜松市発達医療総合福祉センターの『かがやき』の皆さんの作品です。展示品は油彩画、紙粘土による造形品、紙細工、木の板とタイルを組み合わせた鍋敷きなど、色々です。また販売コーナーとして日ごろ作られている洗濯はさみ、印鑑入れ、コースター、しおり、などを並べてみました。障害を持ちながらも一生懸命作られた作品は見方によっていろいろなとらえ方ができます。しかし、たかが絵、と言ってしまふほど軽いものではありません。

それぞれの作品は作者の皆さんの思いっきりの心と、思いと、感情が溢れんばかりに詰まっています。まさに一生懸命の塊そのものです。私は今まで何度かこのような方々の作品展をしてきましたが、決まって感じることは一生懸命、それもひたすら思いを込めた一生懸命です。この皆さんがこの先どのようにして生きられていくのか分かりませんが、おそらくこの作品と同じように1つ1つ何事にも手を抜くことなくひたすら一生懸命毎日を送られるのだらうと思います。そこには何の駆け引きも、思惑もありません。よって皆さんに接すると必然的に皆優しくなります。優しさ以外何も要りません。展示会に1人でも多くの方が見えられ、そして作品を見て色々感じ、思っ頂くことができるといい、と思います。

(2011年2月5日)

来館者様と涙

今日は色々な方が見えました。今までの展覧会ではお会い出来なかった方が見えました。今回は障害をお持ちの方々の作品展です。その方々の親ごさんが何人か見えました。私は初めてお会いする方ですが色々私の思うことを話しました。子供さんに対する思い、親としての日ごろ考えることなどを聞かせていただきました。皆さんはとても実態をしっかりと受け入れておられとても力強い話でありました。

受け入れる、ということはとても出来そうで出来ません。長い時間があって少しずつそのような事につながって行くのかもしれませんが、しかしとても難しいことだと思います。おそらくそう言いながら常に自分に言い聞かせているのでは、と思います。皆さんはとても元気で、明るく、何一つ弱々しいところを見せることは全くありません。とても頭が下がります。

私は、生きるという事は苦悩だと考えています。決して後退的なお先真っ暗な意味ではありません。しかし現実には厳しいものです。その厳しさゆえにたまに”ピカーッ”と光るものを感じることが出来るのでは。その時はとてもいい感じになります。そのような体験、出会いはそう度々ある訳がありません。生きている時間のほとんどは苦悩です。それでいいと私は思っています。またそのような生き方をしていくのだと決めています。

(2011年2月6日)

今頃なによって感じのギャラリー日記

もう11月になってしまいました。ギャラリー60は何とか皆さんのお力によって続けられています。今月は『ひょうたんランプ展』です。

ひょうたんに穴をあけ中に入れた電球から放たれる灯りが穴を通して穴によって形造られた造形模様が映し出されます。そしてその穴から出た灯りが壁面に投影され、それはそれは銀河星座のように鮮やかに映し出されます。まあなんと言いましょうか、展示館内はプラネタリウムを何倍も何倍も華々しくしたような世界になっています。ランプそのものは比較的簡単な構造だと思いますが、大小さまざまな穴をあける技術と図案がポイントかなって思います。そんな感じの展示が始まりました。

今日は土曜日で、私は全く展示館には足を踏み込むことはありませんでした。土曜日は家の掃除をするように決めてあります。古い家なので（築80年）障子戸が多くそれにお寺のようにとても広い廊下があっちこちに有って建坪は75坪もあるのに部屋数は13部屋で、多いのか少ないのか分かりませんがとにかく掃除は手間がかかります。はたきをかけて掃除機をかけて廊下をぞうきんで拭くと、もう半日です。床の間を拭いたり、神棚を拭いたりなんやかんやでもう午後の3時です。とても面倒くさいわけですが、我が家の親方（戸籍上の妻）が全く掃除が嫌いで『埃で死ぬことはない』とよく言って相手に全くされないので、いつしか私の仕事になってしまいました。今日もその親方は勤めが休みでしたが、いつの間にか車とともにいなくなってしまい昼になっても影形もなく、やむを得ず昨夜の残りのおかずで昼飯を済ませ何とか掃除が切りになったところに、いつもよりいちだんと大きな顔をして帰って来ました。私は大慌てでギャラリー内に逃げ込みました。

（2011年11月5日）

七五三祝いと料理屋の女将

この日曜日、孫の七五三の祝いをしました。私の子供達と母親でこじんまりとしました。子供たちは全く酒は飲めません。私だけたくさん飲めます。いつもそうですが、酒飲み一人で周りでご飯を食べたりしていつの間にか周りは食べ終わり、気がつくとき私一人がテーブルに座っていることがあるので、このたびはそんなことがないようにがぶがぶと飲みました。中瓶三本飲みました。全て手酌で飲みました。ガブガブ飲んだつもりですが、やはりいつものように周りとはとくに食べ終わり孫を中心にわあわあやっていました。

私は一人で食事を済ませトイレに行きました。それが何か足がもつれたりして障子戸にぶつかり、よろけよろけて廊下を進みました。トイレの近くで、店の女将がちょうど来て『大丈夫ですか、』と手を取ってトイレに案内をしてくれました。

私は照れくさいのも忘れて女将に持たれるようにゆっくりと歩きました。女将は程良くふっくらとしていてとても気持ちが安らぐ感じでした。ごく普通のおばさんなんですが、ちょっと鼻にかかった声で上品でもないが温かみのある言葉で、とてもいい感じなんです。品もあるわけでもないのですが、いいんです、感じが。少しほどほどに色気があって、いつもそんな風に見ていました。

その女将が今私の手を、肘をそっと抱えて、私は『トイレがずっとずっと先だといい』なんて思いながら廊下を進みました。トイレの戸を開けてもらい私は用を済ませました。とびらを開けて部屋に向かい数歩進むと女将が何も言わず先ほどと同じように右手のひじを支えてくれました。部屋に近づくとそっと手を離し、何も言わず部屋の中に入って行きました。私は少し遅れて何か頬が膨らんだような、にんまりしたような顔を無理やり押えて部屋に戻りました。皆は相変わらず孫を取り囲んで手をたたいたりしてわけのわからんことを言ったりしていました。

(2011年11月8日)

明日は大変

今しがた電話があった。『その、あの、もう40年も前に交際していた方がその友達と一緒に当方に見える』との連絡があった。何と言いましょうか、全くの突然の話で、非常に緊張したりして今頃から何とも落ち着かなかったりしているわけです。確かにその方はとてもきれいでスタイルもよく何よりも頭がとてもいい、また声もいい、すべて良かった、本当によかった。ほんの短い間だったけど楽しかった。その当時は我が家では電話はなかったので隣にかかって来たりして……。呼び出し電話。おばさんがそばにいて話を聞かれていたりして気になってろくざま話もできなかつたりして……。

でもうれしかった。まあずっと、ずっと昔のことだけど色々思い出されたりして。明日写真でも取れたら……。なんて思ったりして、髪の毛を染めようかなんて、年甲斐もなく。

いずれにしても明日の夜は良い酒が飲める。きっとニヤニヤしながらいい酒をいつもより一杯多く飲める。明日の午後1時過ぎはギャラリーは特別開館をする。

(2011年11月10日)

40年ぶりの再会

朝から雨でした。何か落ち着かず、いつもより30分早く起きました。午前中床屋に行って髪も染めました。どこにも寄ることなく自宅に戻りその人をひたすら待ちました。展示館の掃除をしてお茶の支度をして、お土産の米を用意して、待ちました。

1時過ぎ車の音がしました。私はトイレに行こうとしていました。が、足はすぐに車の方に向かっていました。ドアが開きドアが閉まる音がしました。私はその音がする方に向かいます。声が聞こえます。私の目の前にその人がいました。『昔のまんま』本当にそのままでした。『変わらないね』声がしました。館内に案内し展示品の説明をしました。私は展示品はともかく座ってゆっくりその人を眺めていたいと思いました。ソファに座ることを勧めました。私はその人の隣に座りました。40年ぶりだね。40年前が一気に目の前にあります。映画にも、サウンドミュージック、公園も……。気賀の山の上にある公園。ギターも弾いたあの人の家で。舟木一夫の似顔絵も描いた、私の家で。絵手紙を一枚もらいました。その絵手紙には「いにしえの」と書いてあります。遠いもう昔のことです。

あっという間に4時近くなりました。帰り際思い出したように「ひょうたんを買っていく』って言ったりして。私はあらためるように言いました。そして土産の米をそっと渡しました。かすかに手が触れて。車は雨の中を出て行きました。40年がまた現実に戻りました。展示館の横にあるイチョウの木を眺めて、少しボーッとしていました。

(2011年11月11日)

おしゃべりおばさん

まあなんとおしゃべりでしょう。今日のお客さん、豊橋から新聞を見てはるばる2時間半以上もかけてあっちこっち迷ったりして何とかたどり着きました。着いたとたん『アーやれやれ。やっと着いた』と大きな声で言ったと思いきや『ひょうたんランプはどれ、どれ、どんなの』と言ってあわてたように館内に飛び込んで行きました。『ワーすごい、素敵、きれい、きれい、すごい』と何度も繰り返しました。私はその方から少し離れたところで笑いながらその人の動作を見ていました。

『すごいランプを作るのね』と私に向かって言いました。私は管理をしているだけのことを伝えると、少しがっかりしたように『あ、そう、そうなの』と繰り返しました。それでも気を取り直したようにいろいろ質問をされ、それなりに答えました。そして中ブリのランプをまじまじと見つめ『これは良いねー、この赤いところが何とも言えないわねー、こんなの部屋に置いておけるとムード出るわね』。

私が『お酒もすすむし、ひょうたんは縁起ものだから家の中に置くだけでもいいことありますよ』と言うと、『夫婦仲も良くなるかな、いやそれは難しいかな』と独り言のように言いました。「テーブルにこのランプを置いてさしつ差されつでお酒もすすめば夫婦仲どころか、絶好調ですよ」。『そうかしら。絶好調って何、なんなのかしら』『まあその一気に絶好調になるわけであれしかないでしょう、ワハハハハ』『ハハハハハ、でも私は婆だからとてもそんなわけにはいかないわよ』『イヤー、そんなことないでしょう、若いでしょう、まだ40代では』『そんな、あんたひょうたんを売ろうと思ってうまいこと言うわね。その調子でけっこう売ったのね。私はそのペースには乗らないわよ』とか何とか、話が延々とあって、とどのつまりは1時間半以上もべらべらと一方的に喋りまくりました。

私は途中からトイレを我慢していたのもうソワソワして話を折り曲げてばかりいましたが、一向に気にすることなくしゃべり続けました。昼のチャイムが鳴って驚いたように『あらーこんな時間、帰らなくては』と言って写真をいっぱい撮って『面白いお兄さん、また来るわね』と言って、そそくさと出て行きました。
(2011年11月13日)

ごめんなさい、ウコッケイ

烏骨鶏（ウコッケイ）、文字は正しいのでしょうか。とにかくその鳥を飼い始めたのです。近くに寺があります。和尚はいませんが、もと和尚の奥さんが住んでいたのですが、体調を悪くされ子供さんのところに転居されました。その寺にウコッケイが取り残されました。しばらく近くのおばさんが面倒を見ていたのですが嫌になったのか分かりません。或る日、その奥さんの転居先の息子さんより電話があってウコッケイを飼ってほしいと言われました。私はさほど考えもせず「いいですよ、すぐに受け取りに行きます」と簡単に答え、翌日その寺を訪ねました。

ウコッケイは大きな鳥小屋でのんびりとしていました。私はその鳥を捕まえて段ボールにしまいこむべく鳥小屋内に入りました。とても小屋が広いのでなかなか捕まえることができません。あっちこっち走り回ったり飛び回ったりで大変です。最初は手加減をして鳥の後を追いかけて回っていましたが逃げ回られっぱなしのため、とうとう痲癩を起して手加減をやめ手当たり次第、やみくもに手を振り回し足であろうが羽であろうが捕まえたら離さず、何とか3羽段ボールに収めました。

残りはあと1羽です。これがなかなかすばしっこく、もう走り回ってとても相手にできません。私は片手に板されを持って両手を広げて後を追いました。鳥は飛びはねたり大声を出したりもう何事かと思われるような大騒ぎです。私は両手を振り回し続けました。ところ首がちょうど手のひらに当たりました。とっさに手のひらでその首を絞めました。「やれやれ、何とかこれで終わり」段ボールを車に乗せ家に着き、さっそく我が家の新しい鳥小屋に1羽づつ離しました。

ところ1羽がぐったりとして動きません。『どうしたのか、変化になじめないのか』しばらく様子を見ていましたが一向に動く気配がありません。目は半開きでなんとなく心臓の動きも遅い感じで『どうしたのだろう』とても心配になりました。新しい小屋から出して段ボールに入れて様子を見ていました。しばらくして突然大きな奇妙な声をあげました。すぐにこの中の様子を見ましたところ、その鳥はもうぐったりしていて息の音も細々でした。『これはなんとしたことか。何で』と考え続けました。『あの時、あの時、首を掴んで』と思いました。きっとあの時の・・・、私はとんでもないことをしたと思いました。とても申し訳なく思いました。本当に思いました。

(2011年11月14日)

アーめんどうなウコッケイ

今日は来館者がありませんでした。家の周りを片付けたり、ギャラリー内外の掃除をしたりしました。そうそう、あの鳥、ウコッケイのうんこも綺麗にしたり、あっちこっち大忙しです。あっという間に暗くなってしまいます。

夜はオスのウコッケイは段ボールに入れてギャラリー内に移します。なんて言いましょうか、そうしないと大変なんです。朝、コケッココーツの大声が辺り一帯に響き渡って、それも4時とか、とんでもない時間に鳴きまくって何十回と繰り返すわけです。このコケッココーツには、もう参ってしまって、寝不足どころか精神的にも参ってしまいます。色々試した結果、段ボール箱に入れギャラリー内となったわけです。それでもあまり早いうちに移すのも気の毒だと思い、出来るだけ遅く移すのですが、5時近くなるとあっという間に暗くなってオスとメスの区別がつかなくなってしまいます。そんな時は頭を捕まえ、トサカの大きさを手探りで調べるわけです。いずれにしてもそんなわけで今日もいつものように手探りでオスを捜し段ボールに入れ、いつもの場所に移しました。こんなことを毎日やっているわけです。もう面倒で面倒でいつまで続くのか本当に困ります。

(2011年11月15日)

道の駅訪問

ギャラリーは休み。

当ギャラリーの北西に15キロ進んだところに道の駅があります。あまり気になることもないのでほとんど行く事はありません、しかし今日はトウヤク（草花のセンブリ）があるかもしれないと思い訪ねることにしました。このあたりではトウヤクと言って胃腸の特効薬の特別なものとして扱われています。昔はあっちこっち随分あったようですが、いつの間にか無くなってしまい、自然のものに出くわすことは全くと言っていいほどありません。私はそのトウヤクの苦みがとてもいい感じで苦ければ苦いほど胃腸に効果があるような感じがして、不定期的に飲むわけです。いつの間にか手持ちがなくなってしまい捜しているわけで、行き当たりばつたりに今日は尋ねたわけです。

その道の駅は普通の日なのに結構にぎわっていました。店内に入るとお客さんでごった返していました。店番のおばさん達が大忙しでお客さん対応をしています。『トウヤクありますか』と聞くのも悪いような気もして店内を隅々まで見渡しましたが、それらしいものはありません。まあ帰ろうかと思い店を出ようとしたところ、私の様子を見ていたおばさんが『何かお探しですか』と声をかけてくれました。『トウヤクがあるかな』と言うと『ちょっと、ちょっとこっちに来て』と別の部屋に案内されました。

イスに座ってしばらく待つと小ぶりの箱を大切に持って来て『このごろ店に置けなくなって希望者にはこうして分けてるの』との話を少し聞きました。薬扱いのため一般の店で扱いにくいようで……。まあ私はどんな理由があろうとも手に入ればいいので、その場で2袋買いました。とても新鮮で結構丈もあって根もしっかり付いていていい感じのトウヤクでした。これで晩酌が勢い良く飲める。さしあたって今夜はいつもより1杯多く飲む、とその場で決めました。

（2011年11月16日）

ある老夫婦

米の精米に行きました。新米を玄米で買います。少しずつ精米します。今日もいつものコイン精米に行きました。軽トラが一台止まっていた。先客です。車を駐車場に入れ外に出ようとすると、おばあさんが『もうすぐ終わるからね、ちょっと待ってね』と声をかけてくれました。『親切な人だな』と思いその人のほうに歩いて行くと、少し知っている人でした。

ずっとずっと前、山を歩いていた時たまたまその人の家の方に出て少し話をさせてもらいました。とても穏やかな人がよさそうな、そしてとても仲のいい夫婦だと覚えています。主街道より数キロ山中に入った山の中腹に住んで見えます。昔は何件か家もあったようですが、一軒、一軒と減り、今ではその老夫婦の家だけとなっていました。もう八十歳をいくつか過ぎてているように感じます。旦那さんは少し腰が曲がっていて比較的小柄で奥さんも小柄ですがとてもきれいな感じが漂っています。そのおじさんの精米が終わりました。

『お待ちどうさま。終わったのでう、やってくれ』と私に精米をやるように勧めてくれました。私が米を部屋内に運ぶとおじさんは精米機の使い方の説明を丁寧にしてくれました。精米で出る米ぬかも持って帰るといとの話もしてくれました。おばあさんが精米をしたコメをトラックに積もうとしていましたが、なかなか重いので私に乗せてほしいと言いました。一袋12キロくらいでしょうか。『腰が言うことか聞かなくて、悪いねえ』。私は難なく二袋車に乗せました。

『ありがとうね、お父さんもひざが悪くて、よかった、よかった』と喜んでくれました。

精米が終わったコメの袋は暖かくホカホカしていました。『袋が暖かいね』と言うと『家に帰って広げるだよ』と言いながら、大切そうに袋に布切れをかけてひもで留めていました。私は精米の段取りをしていると『お先に』と言って車は駐車場を出て行きました。

私は精米をしながら老夫婦の車を見送りました。そして自分の老後と照らし合わせました。あの二人はとても仲よしでどこに行くのも何をやるのもおそらく一緒にいつも二人で会話も十分あって、我が家はいつも別々でどこに行くのも一人で、たまに一緒に出かけたとしてもとても疲れて家に帰って一人になってホッとしたりして、今は良いかもしれないけど高齢になったときどんなふうになってしまうのかと思いました。

・・・とてもいい感じの老夫婦でした。

(2011年11月18日)

ある会社の社長さん

次月の作品展の案内状を関係者に配りました。朝から大雨でびしょぬれになりながら配りました。次月の展示者が以前勤めていた会社の前社長さんで、そのお宅に行きました。洋服も少し濡れていて雨模様もかなり大降り、失礼だとは思いましたが日程上配りたかったのでお邪魔しました。たまたまその社長の奥さんと私の同級生が兄弟だったので、まあお互いにそれなりの関係もある訳です。玄関に奥さんが気持ちよく出てくれました。『まあ良く来てくれて、さあ上がって』と言ってくれました。運転手が待っていることを告げ玄関で案内状の説明を少ししたところ『ちょっと待って』と言ってその旦那さん（前社長）を呼びに行きました。すぐに旦那さんが見えました。

『〇〇会社に勤めていた方の作品展です。ご主人様にもお世話になった方のようなので』と概略説明をしました。前社長さんはしばらく考えていましたが、その展示者のことはあまり分からない感じでした。それなりに立派な中堅どころの会社ですから一般の社員まで社長が把握していないのだと思いました。それでも前社長さんはとても喜んで是非皆を誘って見に行くと言ってくれました。私が『あまり立派な方々だと本人も緊張してしまうかもしれませんよ』と言うと、前社長さんは『制服を脱げば皆一緒だからどうってことない』と言って奥さんの顔の方を見ました。奥さんは笑いながら、『変な肩書があると後々まで引きずって始末が悪いわね』と言いながらコーヒーを勧めてくれました。私は遠慮なくいただき世間話を少しして失礼しました。雨の中、二人で見送ってくれました。全く有り難いことでした。

（2011年11月19日）

大喜びのお客さん

11時近く電話が鳴りました。

「JAの駐車場にいたのですが、ギャラリーの場所を教えてください」。私は掃除をしていました。掃除を終えて洗濯をやる予定で午後にはペンキ塗りをどうしてもしたかったので、なんとなく煩わしく感じたりしましたが、気を取り直して場所を教え、すぐに道路に出て車を待ちました。電話の主の車はすぐに見えました。駐車場に案内し急いでひょうたんランプに灯りをともしました。

二人連れの女性が入ってきました。一人は少し高齢でもう一人は若い方でした。感じからして親子か嫁姑のいずれかのようなようです。館内に入るや否や「ワー綺麗、きれい、すごい、すごい、」を繰り返しました。奥の方に入ってみえて「大きなランプ、これもひょうたん」などと大きな声で言いました。私は今まで色々聞いたりして覚えたことをそれなりに話しました。「ずっと前から見たいと思っていたので、本当に今日来てよかった」と若い方が少し興奮気味に、そして少し高めの声で言いました、「どちらからお見えですか」と聞くと旧の竜洋町でもう海に近い方からとのことで、あっちこっちで何人かに聞いてやっとたどり着いたようです。私は遠路のところをあっちこっちで聞いたりして、こんなところまで来てくれたことにとてもありがたく思いました。そしてとても喜んでいただいて何よりに思いました、何度も何度も『今日は来てよかった』って繰り返して言われ、ずっとずっと前から何年も前から思っていたことが実現できた、とも言っていました。約一時間ほどいられました。すでに昼も過ぎていました。

『天竜のおいしいそばでも食べて行きますか』『どこかいいところありますか』と聞かれましたが、道案内になんとか自信がなかったので『また迷われてはいけませんから』と言ってそのまま見送りました。

一人で遅めの昼食をとりながら、『やっぱり教えればよかった』と強く思いました。

(2011年11月20日)

人間なんて

今日の来館者は4名でした。皆さんは展示者の知り合いの方でした。それぞれがひょうたんランプの見事さを、決まったように『綺麗』とか『すごい』とかまあ褒めるわけです。そして展示者と世間話などを交えそこそこの時間を過ごし『ありがとう』とか『いいものを見せてもらった』などの言葉を残して出て行くわけです。

来館者と展示者の関係はこんなことの繰り返しなんです。そして展示者は多くの方々に自分の自慢の作品を披露して気持ちも悪くはないのでしょうか。展示会なんてそんな感じでほとんど成り立っているのだと思います。ごく一般のものはそんなものなんです。またそれでいいのです。そんなことで人間関係は繋がっているのです。

人間関係はちょっとした事のお互いの気遣いでいい関係が保たれるのです。だから知り合いが展示会をやることを知ったら、やはり出かけて行くことが大切だと思います。気遣いなんです。お互いに気遣うのです。それがいいのです。誰でもたまの休みくらいは自分の好きなことを勝手にやっていたほうが楽しいのでしょうか、まして遠方であまり気の向かないことに出向くのはとても面倒なんです、でも行ったほうがいいのです。相手が喜んでくれればそれでいいのです。私はこうした場面をずっと見てきて、人の優しさ、人の気遣いについてもありがたく感じます。そして自分もそうしていければいいなと思います。

(2011年11月22日)

人間なんて皆同じ

人間なんて、みな同じと思います。人間とか何とか言っただけじゃせん動物の一種であり、人間様だなんて大きなことを言っているわけですが魚のように水中で暮らせるわけではないし、鳥のように空を飛びまわることもできないし、まして木々のように何千年も生きられるはずもないのに、大きな顔をして何よりもすごい生き物のような感じであったりしますが、大したことはないのです。全くないのです。犬や猫と同じようにお腹が空けば飯を食べ、食べたら出して、男は女を欲し女は男を欲す、眠くなったら寝て朝が来れば目が覚めて、みんな一緒なんです。大したことないのです。

人間同士でも何が違うのでしょうか。勉強ができる、とてつもなく走るのが早い、球を投げるのがものすごく速い、お金を何千億も持っている、すごい美人、歌がとてもうまい、など色々ある訳ですが、別にそれで何が違うのか。走るのが早くても、生きる上ではどうってことないのです。球を投げるのがすごくても、生活するには変わりはないのです。お金が山盛りあっても、お金を食べるわけでもないし、そこそこあればそれなりにやっていけるのです。どうってことないのです。

みな同じなんです。考えることも大差ないのです。食べて、出して、寝て、起きて、食べていくためにお金を手に入れるなにかしかをして。たまに異性と交わって、話をして、何かを考えて、たまに楽しいらしいことをしたり、あるいは大したことでもないのにとても考えたり、イライラしたり、そんなことなんです。みんなそんなことなんです。そんな繰り返しで日々が流れ、或る時ひょかんと自分の過去を振りかえってみたりして、なんとなく空虚になったりするのです。

(2011年11月23日)

気さくな来館者

開館後間もなく大きな車が入ってきました。私は毎日気功をします。開館の10時までには終わるように9時頃より始めます。50分くらいします。もう20年以上やっています。今日は9時頃来客があって、あれこれ話をしていたら10時をはるか過ぎてしまいました。『こりゃあいかん』と急いで気功を始めました。常の日ですし、展示もあとわずかですし、来館者もあまり来ないかなと思い気功を始めたところ、車が突然入ってきたわけです。

あわてて展示館に向かいました。展示館と自宅は20メートルほどの距離にあります。私の部屋から展示館がよく見えます。来館者は車から降りて展示場の前に見えました。会った途端なんとなく気さくに話げできました。『こんちわ、今灯りをつけるからね、ちょっと待ってね』『真っ暗だで休みかと思った』『ランプだもんで暗くないと目立たんもんでねえ』と言ってランプに灯りを入れました。普通は灯りを入れたところで何がしかの反応がほとんどありますが、今日のお客さんは反応がありませんでした。なんとなくいつもと違うので拍子抜けになった感じで、何か言わないかな、と思っていましたが、どうも調子が出ないので『綺麗でしょう』と言うと『そうだね、この模様はどうして出るだね』とか『明るくするとどうだね』などの話が出てきました。

私がどちらから来たのか尋ねると、もう静岡市に近いところからでした。距離にして50キロ前後あるでしょう。『何で知った』『はがきをもらったでや』と言ってはがきを私に見せました。それは私が出したものです。今年の4月の展示会に見えていたのです。遠いところわざわざはがき一枚で来ていただくなんて、とても感激しました。私はひょうたんの栽培の話やこのたびのランプの作り方の話などを色々しました。また、山中ですのでこの時期紅葉の話もしました。来館者は『紅葉を見てくか』と一緒に見えた方に話しました。『せっかくだで見てくか。うまく染まってるといいけどや』などと話をしていました。外に出てもうすぐお昼になるので『天竜のおいしいそばを食べてけば』と言うと『そばは好物だで、うまいとこあるけ』『紅葉を見に行く途中にあるから』と言って地図を書いて渡しました。来館者は展示場の隣にあるイチヨウの実を三人でしばらくの間ひろい、私に電話番号を聞いて『また来るでや』と言って車のホーンをパーーと鳴らして出て行きました。何か気さくで、とてもいい感じがしました。

(2011年11月24日)

展示会で大失敗

浜松駅近くにあるギャラリーに行きました。案内状を頂き、それなりに興味もあったので、忙しい中ですが出向きました。そのギャラリーは初めて行くのですが、すぐに分かりました。

展示場に入るや否や私の興味のひとつである展示館内の装飾、そして作品の展示の仕方を眺めました。しかしきわめてポピュラーでごく普通の展示方法で、なんとなくがっかりしました。過去に展示館が全体がアートそのもののような展示をされた事があったので、もしかしたらと期待をしていたわけです。気を取り直しもう一つの目的である或る人の作品を捜しました。このたびの展示会はグループ展で多くの方の作品が展示されています。私の捜していた方の作品はすぐに見つかりました。これも残念でした。もうすでに何度か見た作品がほとんどで、もちろんいいのですが私は新作を期待していたのがっかりしました。

気を取り直し写真を撮ることにしました。もちろん許可を得て撮影をしました。私の感じた作品がかなり高い位置に展示されていたためカメラを高くする必要があります。手を上にいっぱい伸ばし何枚か撮影していたところ、手が滑ってカメラを床の上にドカーンと落としてしまいました。カメラのふたが飛び、壊れてしまいました。ふたを受け付けの女性の方が拾ってくれました。このカメラはまだ買ったばかりで何枚も撮ってない新品のカメラでした。かなり迷って思いきって買った自慢のカメラでした。もうとてもとてもショックで展示品どころではなくなりました。

一緒に行った私の同行者に『お前がしょろしょろしてるから落としたじゃないか』と八つ当たりをしました。同行者は怒って『何で、私が何もしてませんよ』『そんなこと言うんだったらもう勝手にしてください』と言って帰りそうになったので、私は後を追って『俺の名刺を受け付けにおいて来てくれ』と頼み名刺を渡しました。同行者は黙って名刺を受取り受付の女性に渡していました。

『帰るぞ』と言ってエレベーターに乗りました。ギャラリーを出るとき階段があって、私はその階段に躓きそうになりました。私は同行者に『俺を転ばそうとして階段を教えなかったか』と言うと『そんな事ないですよ、全く勝手だから』と言って駅の方にすたすた歩いて行きました。私は小走りに後を追いました。

(2011年11月25日)

今日は展示者が見えたので、私は雑用を色々としました。いつの間か終わりの時間になり、展示者が声をかけてくれました。

「結構お客さんが来てくれましたよね」『何人くらい来たかねえ』『100人くらい書いてくれてあるから実際はもっと多いんでしょうね』『そうだね、2割以上の人は書いていかないし、何人かで来てみんないからね』。なんてやり取りをして雑談をしばらくしました。

展示者を送って展示館の方に歩いて行くと黒い軽自動車が入ってきました。車を止めるなり私に向かって『もう終わり』と聞きます。『いいよ、見て行く』と言うと『いつも気になっていて通り過ぎちゃって。悪いね、何時まで』『4時だけど、どうぞ、どうぞ』と館内に進めました。

40代半ばになろうとするくらいの女性でした。『真っ暗だからね』『ランプだもんね、暗くないとね』『今灯りを入れるよ、はいよ』と言ってランプに灯りを入れました。『ワー、すごいじゃん、これおじさんが作ったの』。私はおじさんと呼ばれてとても違和感を持ちました。『おじさん、すごいね、きれいだよ』と繰り返し言いました。私は作った方の説明をしました。しかしそんなことどうでもいいというように『写真撮ってもいい』と言って車に携帯電話を取りに行きました。何枚か撮って私に見せました。『こんな感じでいい』『うまく撮れてるよ、この正面のひょうたんもいいよ』と言ったりしてしばらく館内を行ったり来たりしていました。

私がどちらから来たのか尋ねると、私が近々もみじの紅葉を見に行くところの方でした。『紅葉はどう』『まだほんの少し、12月だね』『そりゃ遅いね』と言うと携帯を取り出し『今朝撮ってきたの』と言ってもみじの紅葉の写真を見るように携帯を私に見せました。私はその人のそばに近づき携帯の写真を眺めました。うまく見えないのでその人の手から携帯を渡してもらい眺めました。それは今まで見たことのないとても立派な大きなもみじでした。その後ろに古そうな建物が映っていました。『この建物は何?』と聞くと私の手から携帯を取り次の写真を見せました。それは古いお寺でした。『こりゃすごいね』『いいら、見に来てね』などと暗闇の中で携帯電話を受け取ったり、戻したりするたびに手が触れて何とも言い難い時間でした。

『おじさん、悪いね、開けてもらって。また来るね』『案内状を送る』『頼むね、住所書いてく』『切手代置いてく』『そんなのいらんよ』などとまた入口付近でやり取りして『ありゃ、こんな時間、帰らなきゃ、おじさん、ありがとうね』と言って出て行きました。私はおじさんだよな、と思いました。

(2011年11月26日)

300年前の時計

二～三百年前の時計を見に行きました。会社を経営されている方のコレクションです。その方の自宅を訪ねました。知り合いと二人で行きました。自宅の駐車場に着くとわざわざ出迎えていただきました。さっそく自前のギャラリーに案内していただきました。

時計です。もうあらゆる時計です。100年前くらいのものから30年前くらいのもので様々な時計がもういっぱい掲げてありました。何とんでも文字盤を包み込む木の枠がともいい。すべて手作りでいろいろな装飾が施され、それも決して派手さがないのにとっても目につきます。まさに一つ一つ心をこめてその当時の職人が彫ったものです。心が入っているのかとても気になりました。全くうまく表現できませんがとてもいい感じで見れば見るほどいい感じなんです。何かその当時の職人を感じるものです。その後、ご自宅に案内されました。応接間に入り私はソファーに座りました。ところ同行者がこれはすごいと言って応接間の片隅に置かれた時計らしいものに飛びついて行きました。『和時計じゃないですか、これはものすごいとんでもないものじゃないですか』と言ってか食い入るように上から横か下側から眺めていました。私もそばに行ってみました。私はこんな時計は見たこともないので、これが時計だと初めて知りました。和時計というそうで江戸時代にあったもののようです。構造は重りの重力によって歯車を回す仕組みになって比較的シンプルな感じですが。木造の木の台（1メートルくらいの高さ）の中に重りがつられています。その台の上に立方体状の時計本体が乗っています。また時計の上に半球状の鐘があり、時を知らせます。時計の周囲は繊細な彫り物がきめ細かくされ格調の高さを感じるものです。これこそ日本の障子と格子戸の部屋にあって日本髪の女の人が居て三味線があつてろうそくの行燈のもとでいっぱい飲んで『兄さん、さあどうぞ』なんて芸者に進められ酒を飲む光景にぴったりじゃありませんか。何とも言えない和時計でした。

（2011年11月27日）

40年ぶりの訪問

その人の家はすぐに分かりました。当時の面影は全くありません。今風に綺麗な建物に変わっていました。しかしなんとなく昔のあの当時の感じがたまたまから感じられました。玄関のチャームを押すと、あの人の声が返ってきました。すぐに玄関が開けられ、あの人がにこやかにとてもにこやかに出迎えてくれました。

「いらっしゃい、車は」『大丈夫です。お忙しいのにすみません』と言うと『さあ、上がって下さい』『イヤーここで大丈夫です』と言うと、少し離れた所から電気のストーブを持ってそばに置いてくれました。そして少し小さめの座布団を私に勧めくれました。私は少し新米を用意していたので渡しました。

「すみません、私も少しだけ渡したいものがあるの」と言って2階に上がってすぐに手提げの紙袋を持って見えました。「旅行に行ったので少しだけ、甘いもの大丈夫」『甘いものでも何でも私は大丈夫です』と言うと、『よかったわ、八橋なの』と言って紙袋の包みを見せました。私は久しぶりの味を感じていました。花をあしらった飾り物を見せていただいた後、『絵手紙を一枚ほしいのだけど』と頼みました。

「私の、下手よ、皆のはとても上手なんだけど」と言ってファイルに閉じた絵手紙を持ってきて『もうこんなにたまったの、色々あるわよ。でもみんな下手なの。先生はとてもユニークって言ってくれるけど、みんな私を見て大笑いしたりするの』などしばらく絵手紙のサークルの話などを聞きました。私は絵手紙の中で、感謝、感謝、ありがとう、と書いたものが気に入ったので頂きました。それからしばらく、くるくるとなんとなく今一つが言えない感じ、でも気持ちはつながっている感じ、そんなふわふわした感じでの話をしばらくしました。

すっかり時間が過ぎてしまいあわてて失礼のあいさつをすると『もう一つ渡したいものがあるの』と言いながら奥の方に入ってすぐに紙袋を持ってみえました。『これは車の中で見て、大したものでもないけど私のとても気に入っているものなの。よかったら使ってね』と言って紙袋を私に渡してくれました。私は何の遠慮もなく言われるままに受け取りました。車の窓際まで来てくれて、『今度はあそこの駐車場に入れるといいわ、気をつけてね』と見送ってくれました。私は後ろを振り返りませんでした。

(2011年11月28日)

もみじの老木

楓の老木がある寺を訪ねました。当ギャラリーから北西に6キロほど入った山の頂にありました。その寺にたどり着くまでが大変で、山中の狭く曲がりくねった道をそれも車通りが少ないため道上には枯れ葉や木の屑が散乱しています。上がり勾配もかなり厳しく、ときおり視界が開けるとはるか眼下に人家が見えたりして、ここで滑ったら一貫の終わりだ、とってしまいました。ハンドルの切り返しの連続と勾配が急のため車がうまく前に進まずタイヤが空回りしてゴムの匂いがすることがありました。これで本当に道は大丈夫か、と心配するも人家も案内板もなく前に進むしかありませんでした。そうこうするうちに寺らしい建物が見えました。道も行き止まりになりました。

車から降りるとありました。楓です。幹回り3メートルをはるか上回ると思われる大木が2本、寺の前の境内にどっしりと構えていました。それはそれはみごとな、立派な、すごいものです。枝を四方八方に伸ばし、その枝のすべてにあのもみじの葉が天を覆い隠すようにもうどこまでも、どこまでも、もみじでいっぱいです。私は目が悪いので紅葉の具合が今一つつかめないで同行者に訪ねました。

「モミジの色はどんな具合だ?」『真っ赤なところもだいぶあるけどまだ赤くないとこのほうが多いですね』『真っ赤赤のモミジはどのあたり?』『車の置いてあるあたりですね。この前の上の方もだいぶ赤いけど』『綺麗か?』『綺麗ですね』『ものすごく綺麗か?』『そうですね』。

写真を撮ることを伝え、車からカメラを取ってくるように頼みました。私はその間、寺の周りをゆっくり歩き周囲の様子を眺めました。寺は山のほんのわずかな平坦地に山にへばりつくように建っていました。建物はさほど気になるようなところもなく古びた建物をトタン板で繕ってありました。寺の前はほんの少し空き地があって、その先は断崖になって転げ落ちそうな感じでした。寺の横は沢があって山からの湧水が流れています。全て山の木が生い茂る中、唯一光りかがやく楓の老木です。同行者がカメラを持ってきました。私は同行者に私の写真を取るよう頼みました。「寺をバックに俺を入れてとってくれ」『はい、わかりました。はい、撮りました。』『どうだ、見せて』撮られた写真を見ると足元が入っていません。「全身を入れて取ってくれ」と再度頼みました。そしてこの老木と一緒に何枚か撮って、ミカンを2つ縁側で食べて、寺と楓の老木を後にしました。

(2011年11月30日)

今日はギャラリーはお休みです。

今月の展示作品は流木アートです。山中から流れ流れて形も色々と変化し流れ着いた流木、マニアの目にとまり手を加えればまさに造形美術品となり宝物ともなります。

私は眼科医に行きました。もう何年も行っています。治るのかこのままの状態にいるのか、また進行して行くのか、とにかく様子を見ましようということです。飲み薬と眼薬を出してくれるので切らさずに使っています。いずれにしてもまた行きました。

今日は雨もようでしたので、患者も少なくすぐに呼ばれました。先生の助手がいて優しく案内をしてくれます。時には軽く肩などをそっと押してくれて診察場所まで案内してくれたり、また診察が終わると待合室まで付き添ってくれる場合もあります。だから病院に行ってもとても気持ちが楽です。

今日もいつもと同じように案内をしてくれました。私がギャラリーをやっていることも知っていて少し展示内容の話もします。先生の部屋に案内され腰掛けに座ります。先生が決まってほんの少し世間話をします。そしていつもの検査台を使って目の中の状態を調べます。台に顎を乗せ固定されます。

先生は私の眼の中を調べます。私と先生の距離はかなり近い状態であると思われます。私と先生の間幅5センチくらいの検査の器械があって、それで私の顔が固定されます。おそらく先生との距離は10センチ位かと思います。だから私は眼科医に行く時はしっかりと歯を磨き歯間ブラシで歯の間もしっかり磨きます。目のふち周りも見えていただく前にハンカチでしっかり拭きます。今日もいつものように先生は私の眼をのぞきながら『変わりはないです』と言ってくれました。そして年末の話をしました。私はだいぶ正月が近づいたと思いました。先生は女性です。

(2011年12月2日)

高齢者世帯が一割を超えたが

朝から雨模様。このたびの展示も天気具合がいまいちよろしくないのですが、朝から多くの来館者があり、一日中にぎわっていました。私も午後知り合いの方が見えたので、一緒にしばらくの間話をさせていただきました。

そして本題です。今日は少し暗っぽい話です。ニュースで高齢者の世帯が全体の一割を超えたということをポーとして聞き流していました。しばらくしてひょかんと思い返したりして、少し考えてみました。

一割がどのような数字なのかはよく理解できませんが、思うことは年とともに家庭は少人数になってひっそりと、細々とした生活になって行くことは現実です。我が家でも一番多い時は7人もいたのに、今では3人です。それも後期高齢者と高齢者予備軍です。

毎日静かなものです。たまに孫でも来ると一気ににぎやかになるのですが、殆ど静かそのものです。一生懸命働いて何とか子供たちを育てて、いつの間にか離れて行って、気がつくとき周りには年寄りばかりとなっていて、この先も増えることはこのご時世考えにくいものです。そうするといずれ一人暮らしになってしまうわけです。まだ私の場合は60代の前半ですので多少は他人事的に話をしたりしてしまいましたが、現実はその遠い話でもないかもしれません。誰かが最終的に一人になっていくのです。困ったもんだとも言えないし、なるようになるともそう簡単に思えないし、次の言葉がなかなか見つかりませんが、やはり年を取るということは残念ながら寂しいことになります。と言って大家族を望んだとしてもこのご時世なかなか難しいところがあります。私の住む山間地では学校もいつの間にか無くなってしまい、6キロも離れたところまで行くわけです。病院も同じです。店も同じく離れたところまでいかないと生活用品は購入できません。働くところも限られますし。そんなわけで子供たちに一緒に住んで、なんてこと言えるわけありません。非常にこのところは解決できるものは見当たりにくいものです。

そんなことを思い出したように時々考えたりして、あっという間に年数が過ぎていくのでしょうか。そしてある時、その現実がなんとなく見えた時、私はどうするのでしょうか。どうやって行くのでしょうか。高齢者予備軍として流れるままというわけにはいきません。現実をしっかりと見据えて、それなりの計画を持っていないと、と強く思います。流れるままに、はよくありません、自分のためにも・・・。

(2011年12月3日)

忘年会

忘年会に行った。昔の会社の仲間達と私の行きつけの料理屋で、久しぶりの大人数での飲み会なので、しばらく前から楽しみであった。何より私の良く知っている所だったので気持ちも楽だった。

いつものように乾杯と同時にカラオケパレードとなった。歌っている間に飲み食いをするという調子で、とにかくにぎやかである。なんてたって平均年齢60代前半の俗に言う団塊世代が中心であり曲目もその青春時代が多くなる。舟木とかクールファイブとか堺など様々となる。歌うと飲む、歌う前にも飲む。とにかく飲む。皆も飲む。もちろん女の人も飲む。しゃべって食べて飲む。とうとうダウン。大騒ぎ。『大丈夫？ おい大丈夫け？』『そんなに飲んじゃあいないのに』『ちょっとこっちで横になってたら？』などと、わあわあ言って、それでも歌は止まることもなく、歌ってる人は気がつかないのか踊りまくったりして。私も嫌いではないので何曲か歌った。『アメリカ橋』とか『まだ見ぬ君を思うかな』とか。なんとか歌って音痴で外れて全くやってられないという感じでと歌っている間にマイクを取られたりして。時間が経つに従ってますます盛り上がり大賑わいで二階の広間でやってるわけです。一階は一般のお客が居るわけですが、おそらく二階のにぎわいで『とてもこりゃいられない』って感じで早々に引き揚げそうな感じがするほどです。

またダウン。手慣れたものでワァワァ言って、決まったように横にさせて、それで終わり。

私は時間を気にしていました。テレビの番組をどうしても見たいものがあって、ビデオもないので見るしかないのです。それは太平洋戦争の証言者の記録です。前の日の継続でとても気になって……。そんなわけで私は『そろそろ眠くなってきたので終わりにします』と言って最後の歌を私が世話になっている運転手に歌うように言いました。運転手は喜んで歌い始めました。私はその歌が始まった途端席を離れました。同じように皆も席を立ちました。運転手は皆が部屋を出て行くのを見送りながら、一人になっても最後まで歌いきっていました。

(2011年12月5日)

最終バス（パート1）

今夜も最終のバスが決まった時間、8時11分に通り過ぎていった。私は最終の家事であるモップがけをしながらバスが通り過ぎていく音を毎日聞いている。私は最終のバスに乗ったことはない。しかしなんとなくバスの中の様子は感じることができる。そしていつも思う。バスの中の様子を。

乗客はいつも決まった人で数人が所々適当に離れたイスに座り、ひたすら目指すバス停に心に向けてボーと車外の暗闇を眺めたり携帯電話でメールをやったり、ジーと目を閉じて車の走る音だけ感じていたり。まあそんなところで、ひたすら静かである。

向かうところはみな自分の家であるけれど、果たしてその家はどんなだろう。優しくこぎれいな奥さんが居て、旦那の帰りをひたすら待って暖かい手料理を、それも綺麗に並べ、紙などを整え直したりして、玄関に目をやったりあるいは出たり入ったりして待っている。あるいは年寄り夫婦が息子の帰宅を待って、いつものように決まった昔ながらの煮っ転がしのおかずを用意して、爺さんと『早く嫁がほしいのう』なんて話をしていたり……。また寝たきりの旦那が居て、家の中は真っ暗闇で、いくら慣れた所と言っても玄関にたどり着くにはひと苦労したりして、玄関を開けても何の反応もなく思い足で夫の寝ている部屋に行って様子を見ながら世話をし、もう晩御飯の支度などとてもする気にもなれず出来合いの焼き魚とかコロケで簡単に夕食を済ませ、休む間もなく洗濯ものの片付けなど、まだその日の仕事が山ほどあったりして……。あるいはバス停を降りて自宅まで自転車で数十分も走らないところに家があったりして、暗闇をひたすらペダルを漕いで、それでももう昔からそんなことの繰り返しのためあまり気にもならず口笛などを吹いて家に向かったり……。とにかくいろいろであると思う。

こんなことの繰り返しを毎日やっているわけで、何とも言えない寂しさと言おうか、むなしさと言おうか、とにかく暗闇の中で、先の見えない中で、ただひたすらどんな人でもどんな状況でもまずは自分の家に向かうのである。

（2011年12月6日）

最終バス（パート2）

今日はギャラリーはお休み。しかし、結構この休みに見える方があります。

今朝も早々と見えました。かなり離れたところからなので、あまり冷たくもできず入口を開けました。それまでは良いのですが、なかなか帰られる気配がなく色々聞かれたり、とどのつまりは展示者と話がしたいから連絡を取ってほしいなどと言い出しました。さすがに私もお人好しもほどほどと思い、出直してほしい旨を伝えました。その方は外に出て、まだ私にあれこれ聞いたりして、私にしてはどうでもいいような話ばかりでした。

今日も最終のバスが決まったように8時11分に走り抜けて行きました。バスの通り過ぎる音はとても寂しさを感じるものです。運転手はひたすら最終のバス停を目掛けて、暗闇をバスの明かりで照らされた限られた範囲を見つめて走るだけです。もう新しく乗る乗客はまずありません。一人、二人と降りる客だけで、停止のチャイムを聞きながら止まったり走ったりを繰り返すだけです。

最終のバスです。ほとんどいつも決まったお客でいつの間にか顔見知りになったりして、降りるとき少し世間話をしたりすることも多くあります。運転手はいつものお客のため改まった言葉を使うこともなく、ごく一般の飾り気のない、愛想もない言葉で話します。そして少しずつ目指すところの最終のバス停に近づいていきます。たまに全く見知らぬお客が乗ったりして、いつまでも降りる気配もなくバスの中の乗客も数人になって、その見知らぬ客は席を立てて運転手の後ろに来たりして、運転手は何か心が落ち着かなくなってきました。数人残ったお客も皆降りてしまい、見知らぬ客と運転手だけがバスの中にいます。運転手はひたすら走り続けますが、バスの中のルームミラーを繰り返し繰り返し覗き、お客の様子を確認します。客は後ろの席にいたり中ほどの席に移ったりして落ち着かない様子です。運転手はルームミラーを今までより頻繁に覗き込み、客の様子を探ります。客は立って吊革にぶら下がるような格好をしたり膝を曲げたり伸ばしたり、とにかく落ち着かない様子です。運転手もますます気がかりになり、早く最終のバス停に、と強く思ったりしています。おのずとバスのスピードも速まったりして、客が突然運転手の後ろに来ました。運転手の体が硬くなりました。大きく息をしたりして客が気になります。

『いったいなんだろう、この客は。嫌な感じだ』と思ったとたん、『運転手さんバスを止めてくれないか』と客の声。『トイレをしたいんだ』。運転手はバスを止めました。

(2011年12月7日)

古民家を訪ねる

当ギャラリーは中山間地にあります。周りは山に囲まれ平地は至って少なく、その平地を使って稲作を細々としています。それでも市街地にほどほどの距離にあるため、何とか見捨てられずにいるのかと思います。しかし10キロ前後進むと、もうそこには俗に言う限界集落が点在しています。

今日は友人とその限界集落を訪ねました。友人の知り合いが居る所の集落です。そこは街道より沢沿いに山道を5~6キロほど登ったところの集落です。車はすれ違いはとても困難と思われる山道を進みます。風により木々の葉っぱや枝が路上に散乱しています。沢沿いの道から枝道に入ります。もうそこは周り全てが山の木々に覆われ、どこを見ても杉木立です。唯一見通しがきくところが道、道路だけです。道路の上は今までにまして杉の葉が盛り上がるように辺り一面を覆い尽くしています。

車は比較的早く目的の集落の入口に着きました。友人の知る古民家があるところです。山の斜面を造成して家が建てられています。民家が数軒点在しています。どの家も西に表を向けて裏は山の斜面、前は石垣が高く積まれています。石垣もすべて垂直に積まれているため、まさに絶壁状態です。その細長い土地に合わせたように家が建てられています。細長くほとんどが平屋の家です。

友人の知り合いの家を訪ねました。もうすでに住人はなく家だけがそこにあります。外観のほとんどは新しく改造されていますが、原形を推測するには何の影響もありません。家の中には入ることはできませんが、家の周囲だけでもその家の雰囲気から色々と感じられるものがあります。おそらく100年をかなり上回る年数を感じる建物です。そんな昔、このような建物は殆どなかったと思われます。部屋数もかなりありそうだし建て方もともしっかりしています。建てられている場所からしてもよくも長年の間しっかりと状態を維持しているものだと感心しました。

『玄関に並んで雨戸があって、その内側は廊下になって、そして障子戸があって、玄関を入ると右側に風呂があって、風呂の奥は台所となっているのでは』などいろいろな思いをはせます。西南側に突き出たように家が伸びています。『ここはトイレだな、それにしても結構広いトイレだな』なんて勝手に想像を膨らまします。この家は何十人いやもっともっと多くの人を送り出してきたのでしょうか。いつの間にかお役目御免となってしまう、今では少しづつ朽ち果てていく存在となってしまったのでしょうか。残念ながら人間でも同じなんではと思うのですが、もうどうすることもできないのでしょうか。流れるままに任せていつしか樹木に覆われたりして消えゆくわけです。私はこうした住人のいない古民家をととても好みます。今日もとてもいいところへ案内していただいたと喜んでいきます。そしてこうしたところに行った日は、なぜか虚脱感に覆われます。

(2011年12月9日)

考えたくない一日（パート1）

とても忙しい一日でした。それもそれなりに充実していて、とてもいい一日でした。そんな日はあまり考えたりしたくありません。そっと静かに自分の時間を過ごしたいと思います。あっという間に一日が流れて、あっという間に夜になって、あっという間に夜中になる。あっという間に時間が過ぎ去っていく。今日一日色々あったのに皆もう過去のことになって、いつものように静かな夜になって、昼間の出来事は皆すっ飛んでしまう、毎日の繰り返しです。

今日はウコッケイに晩御飯をやることができませんでした。もう真っ暗になってしまい、すでに眠りの体制になっていました。とても気の毒に思いました。鳥の楽しみは食事くらいしかないのに、その食事も今日は満足にできず、さぞかし怒れたかと思います。おそらくまたしばらく卵は産んでもらえそうもありません。

それに犬の散歩も出来ませんでした。犬もほんの少しですが毎日晚方散歩をととても楽しみにしています。その楽しみも今日はなく、一日中ひもにつながれ同じ場所でただひたすら寝たり起きたり、ほんの数メートルの移動距離の範囲で一日を過ごしました。本当に疲れ切ったと思います。明日は今日の分を含めて、鳥にはごちそうを、犬には散歩を充分してあげようと思います。

（2011年12月10日）

わがままいおじさん

わがままおじさんがここに一人います。それは私です。

どうしようもないほど、わがまま勝手なんです。別にこのごろ年をとってそうになって来たのではなく、ずっとそうなんです、みんな、こんなにわがまま勝手ではありません。自分でもあきれほどで、どうしようもありません。

今日もそうなんです。私は毎朝気功をやります。もう何十年もやります。持病持ちで治療効果があると確信してやっています。朝9時過ぎから1時間ほど集中します。ところが、その途中で人が訪ねてきたり電話があったり、要するに気功が途中で中断することはすごく抵抗があります。場合によっては人が訪ねて見えても知らんぷりして続けることもよくあります。電話が鳴っても知らんぷり。しかし、そういかない場合もあります。どうしても中断しざるを得ない場合は、とても気分が悪くなります。気功は最後までしっかり集中してこそ、それなりの効果があるのではと思っています。よって中途半端だとやらないほうが良いのではと思います。一度中断すると、また初めからやり直さざるを得ません。一日の予定がまるっきり狂ってしまいます。またこれがとても嫌なんです。

私は一日の時間計画を立てて毎日を過ごしています。よって朝の気功時間が狂ってしまうと、その1時間を調整することはとても困難な場合が多く、一日の予定を消化するには夜までかかってしまうわけです。

そうなんです。勝手なんです。ものすごく勝手なんです。しかし、しょうがないわけです。こんなわがままがいつまでも通用するわけもないのかもしれませんが、今さら手のひらを返したように、えべっ様のように年中いつもニコニコしていただけるわけもないし、こればかりはどうしようもありません。

(2011年12月11日)

今夜は飲まない

今月の当ギャラリーの展示品は流木アートです。私は流木展のお客さんがなんとなく少ないのではと心配をしていました。

しかし、そんなことはすぐに吹っ飛んでしまいました。本年の中では1番か2番に多いお客さんが毎日色々なところから来てくれます。県外からも何人か見えました。私は女の方はあまり興味もないのでは、と思っていましたが、それも全く心配無用で、かなり興味を持ってられる方が多いのにびっくりしました。この先もとても楽しみです。さて、今夜はお酒を飲むのを止めようと思います。この12月に入って飲む機会が多く時には昼間から飲んだりして、昼間だからあまり調子が出ないな、なんて思っていたてもいざ宴会が始まると、もう昼であろうが何の抵抗もなく色々な飲み物がのどを、グイー、グイー、と通って行きます。すぐにおかわりの連続で、気がついた時はヨタヨタでもう大変です。まあそんなことの繰り返しで、さすがに内臓がくたびれて来たらしく、もたれていまいち回復が遅れ気味のようです。今までは朝のうちは調子が出なくても昼になるといつの間にか元に戻っているものでしたが、今日はどうもストライキのようです。まあたまには少し休みをやることにしようと思います。よって今夜は1杯にしておきます。

(2011年12月13日)

ありがたく、本当にありがたい

車での移動中、突然電話が鳴りました。電話番号は記憶にない番号でした。躊躇しながら電話に出ました。電話口は優しそうな夫人の声でした。『流木展に伺いたいのですが、場所がよくわからないので教えて頂きたいのです』『どちらからですか?』それははるか離れた遠州灘に近いところからでした。約35キロほど離れたところでしょう。話を聞くと、ご主人がとても流木が好きで是非見せたいとのこと。その御主人はもう介護施設に入られ、自分ではとても移動などできない状態で、いつどのようになるか分からない状況のようでした。『私も悔いのないようにしたいから主人を連れて行きたいのです。介護タクシーで行きます』『失礼ですが、介護タクシーは随分高いですよ』『いいんです。何とかかなりそうだから、いいんです。いつどうなるか分かりませんから、出来ることは、とって』。

私は自宅に帰って地図を送ることを伝え、電話を切りました。帰ってさっそく地図を用意しながら、何とも複雑な感じを抱きました。残り少ない日々を送る中、不自由な夫をお世話する奥さんの心中はどんなものなのか。毎日をどのような心境で送られているのか。いろいろ考えたりするものです。そして遠路このような大したギャラリーでもないのに訪ねてこられることに、私はとても感銘を受けました。私の電話番号も市役所に問い合わせ、市役所から新聞社を紹介され、その新聞社で確認されたとか。いずれにしても私は本当にありがたく、心の底からありがたく感じました。どのような方かお会いできる日が待ち遠しく思います。

(2011年12月21日)

御前崎に行く

海が見たくなって御前崎に行くことにしました。私は突然山に行きたくなったり、町に行きたくなったり、します。そんな時は余程の事がない限り出掛けます。

今日は海を見たくになりました。たまたまギャラリーの展示者が見えたので、失礼して出掛けました。海なんてどこでもいいのかもしれませんが、今日は御前崎なんです。別に理由はないのですが、なんとなく気持ちがそういうことになって。

御前崎までは40キロほどの距離にあります。車をひたすらお前崎に向かって走らせます。と言っても私が運転するわけではありません。いつもの運転者をお願いするわけです。御前崎までの道中はさほど気になるところもありません。ただひたすら休むこともなく御前崎に向かいます。1時間40分ほどで目指す海が見えてきました。車を止めて海岸の堤防の上に登り海を眺めました。風が強く帽子をかぶってられるような状態ではありませんでした。

私は海を東から西に、そして西から東に向かって何度も繰り返し眺めました。風が強い割には波はとても穏やかで冬の海ではありませんでした。波しぶきもなく比較のおだやかでした。打ち寄せる波はとても静かで淡々と寄せては引いてまた寄せる。とても静かです。はるか沖の水平線も一直線にとってもきれいに眺めることができました。水平線を邪魔する船も全くなく、それはすべて海でした、海しかそこにはありません。

私は何枚か写真を撮りました。そして私を撮ってもらおうと運転手を呼びました。「海をバックに撮ってくれ、全身を入れろよ」などと注文をつけ、カメラを渡しました。運転手は背後から照りつける日差しがカメラの画面に反射しとても取りにくそうでした。それでも何とか一枚撮りました。場所を変えてもう一枚撮るように頼みました。運転手はカメラの画面に日差しが反射して撮れないと言いました。私は手で日差しを遮らないと、と伝えました。が、一向にうまくいかないようで、私もいつまでも突っ立っているのもえい加減にしてくれよ、と思い、運転手に『何をしてるんだ、写真も撮れないのか』と、きつい言葉で言いました。

運転手は私にカメラを渡して車に向かいだしました。私は運転手に『何だ、投げだすのか、遊びに来ているのではないぞ、撮影をしに来たんだぞ』と、わけのわからんことを言いました。そして再び海をバックに写真を撮ろうとしましたが、運転手がカメラがおかしいと言いました。カメラの電池がもうありませんでした。

(2011年12月22日)

何年か前から年末になると決まって浜松の最北・水窪に行きます。これといって理由はありませんが、とにかく行ってみたいのです。今日も朝からとても冷たい風が吹いて寒さ厳しいものでした。水窪は当方より40キロほど北に入った長野県との県境にあります。このごろ浜松市に合併しました。産業も何もない高い山に囲まれた小さな盆地の中に数千人の人々がひっそりと暮らしています、生活圏は長野県の南部・南信濃あるいは愛知県の西北部・東栄町との行き来が多いと思います。町のほとんどが山です。南アルプスの一角にあります。よって標高もかなりあります。雪も冬の間はよく降るようです。今日もとても寒く、とにかく冷たいったら冷たいのです。

その水窪に入る少し前に飯田線の城西という駅がありました。車を止めて駅のホームに向かいました。駅は当然無人駅です。客はもちろんいません。常でも多くの乗降客があるとはとても考えられません。界隈に人家があまりありませんし、駅の構内にも人がとどまるような場所もありませんし、駅構内の雰囲気も人を感じさせるものは全くありません。それでもホームは長く、そしてそれなりに綺麗に花壇などが作られ立派なものでした。

ホームに立ち線路を眺めました。かつてはホームを挟んで双方にレールが敷かれていたでしょう。それも今では取り払われ、ただ単線の電車のレールが緩やかなカーブを描いてひっそりと敷かれていました。飯田線の駅の中で水窪の中にある駅のほとんどは秘境駅のようなのです。この駅はその限りではありませんが、とにかく寂しい駅が多いようです。

私は城西駅を後にして水窪駅に車を進めました。水窪駅はいつものように街を見下ろす高台の上に静かにひっそりとたたずんでいます。もちろん無人駅です。それでも駅の構内はかつてそれなりの乗降客もあったのでしょうか、ほどほどに広く腰掛けもいくつか設置されていて、寒さ対応の戸締りもしっかりしています。切符売り場もあったのでしょうか。売店もあったのでしょうか。電車待ちのお年寄りが二人、世間話をその土地の言葉遣いでしていました。

突然、構内のスピーカーから音声が流れました。「雪のため次の電車は7分遅れています。ご迷惑をおかけします。もうしばらくお待ちください」。おそらく前の駅から音声が伝わるようになっているのでしょうか。私はその電車の写真を撮ろうとしましたが、いかにも寒さが厳しく、とてもプラットホームで電車を待つ気にはなりません。写真を撮諦め、車をUターンさせました。

(2011年12月23日)

私は一日の時間を計画して、その時間に沿って一日を過ごしています。家にいるときは、午前中は家事仕事に明け暮れます。家事仕事と言っても、まさに女の人のする仕事です。朝は食事の片付けから風呂の掃除、台所回りの掃除などをします。そして9時頃から気功を1時間ほどします。10時過ぎから毎日割り振ってある家事仕事です。ちなみに今日は掃除機を家の中全体にかけます。掃除機をかける前にはたきがけをします。昔のうちなので障子戸や格子の戸などが多く、はたきが一番綺麗になります。そんなことをしているともう昼になります。昼食を済ませてまた後かたづけ、そして玄関周りの掃除をします。それで家の関係は終わりです。

続いて洗濯です。今日はシーツなどを洗濯しました。そうそう、天気もよかったので布団も干したりしました。もう2時を過ぎてしまいます。その間にウコッケイにえさをやったり水をやったり花に水をやったり、まあ細かな諸作業をします。予定からするとこの当りで昼間の予定の作業は終わりです。2時半頃でしょうか。

ところが、そのようには行かないものです。ギャラリーのお客さんが見えると対応をします。人によっては1時間以上話をしたりすることもあります。そうした場面がもう午前から発生しますと、もう計画どころではありません。出来なかったことは当然ギャラリーを閉めてからということになります。よって夕方6時過ぎまでアタフタあたふたと、もうコマネズミのように動き回ります。本当に忙しいのです。

夕食は7時頃からします。家の者は6時頃済ませてしまっ、ほとんど一人で食べます。よって晩御飯の片付けも私がします。8時過ぎから床のモップがけをします。

そんなこんなで1日のもろもろが終わるのは、いつも9時過ぎになります。風呂に入りやれやれというのは10時頃になります。本当にやれやれなんです。この頃は寒いので電気カーペットに横になります。1時間少しの間が本当に安らぎの時間です。その時間が来ると本当に一日が終わったと感じます。私は妻も子供もいます。

(2011年12月24日)

どうなっちゃうの？ 国債依存度42%

今朝の新聞で来年度の予算のうち42パーセントが国債に依存するような記事が目につきました。内容を読んでないので細かいことは分かりませんが、何しろ借金がもう1000兆円にも達するようです。ついしばらく前は600兆円だったのに何年もたたないうちに1000兆なんて、いくら無関心と言っても気にせざるをえません。

とにかく、とんでもないことです。こんな借金、返せるわけはありません。消費税100パーセント位にすれば分かりませんが、とにかくもうバカくさくて言葉が出ません。しかし、いずれはこのつけが私たちに回ってきます。必ずきます。その前にやることをしっかりやらしてもらわないといけません。

何をやるって、まず公務員の給料を30パーセント以上下げることです。そして公務員の人数を減らします。約半減程度できます。それから箱ものの中で採算が伴わないものはすべて廃止することです。要するに国の労働者の間接労働者を大幅に減らし直接労働者に振り向けるわけです。公務員は間接労働者です。金を生まない金食い虫です。そして箱物はほとんど採算は釣り合っていないのでしょ。多少の影響は覚悟でもう廃止すべきです。まずすぐにこの3点をやることです。

そして、国会議員を始め市町村の議員まですべて半減です。これも早急にやらないと国民は納得しません。これもすぐできます。議員報酬は現状でもいいと思います。あるいは上げることもいいと思います。こうしたことをすぐやらないと大変です。本当にいくらおとなしく忘れやすい国民とはいえ、もう限度だと思います。

(2011年12月25日)

私が悪く言われるんですよ

本年最後の展示会も最終日です。流木アート展。作者にはとても失礼になりますが、予想に反してとても人気がありました。新聞でも比較的大きめに掲載してくれたためか、新聞を見て訪ねられる方がとても多く、それも遠方からの方がかなりありました。おそらくそのような方は本年の展示会の中では一番多かったことと思います。

それに皆さんとても熱心に鑑賞されていました。1時間以上も鑑賞されていた方もかなり見えました。また2度3度見えたり、あるいは知り合いを連れて来ていただいたり、とにかくとても内容のある展示会だったと思います。本年を締めくくるには何よりもよかったと思います。また来年もできるといいと思います。

そして今日も遠方から熱心なご夫婦が見えました。40キロ以上も離れたところから何度もあっちこっちで訪ね訪ねてやっと着かれました。展示館に入ると同時に『アーやっど、やっど見ることができるや。ほーほー、すごいー』などと独り言を繰り返し、入口あたりの大きな流木を眺めていました。奥さんは「写真、写真、お父さん、カメラ、撮ってもいいの』と確認するや否や、車に戻ってカメラを持ってきました。とても立派そうな大きめの俗に言う一眼レフのカメラです。

何枚か撮って、「お父さん一緒に撮ってもらいましょう』と言うや否や、私にカメラを渡して、もうすでに二人並んで準備ばたん流木をバックに二人並んで早く撮って、って感じでした。私はこんな立派なカメラは扱ったことがないので、何度か説明を聞いて何とか写しました。そしていろいろ世間話を交えながら流木を見て回られました。定年退職をされてから林業の仕事をしている中で流木に関わるようになり、色々と手がけているようです。なかなか思うような出来ばえにならずいつも奥さんにハツパをかけられどおしの話をしていると、いきなり奥さんが『そうなんですよ。全くあれこれ集めては満足に出来上がったのは何一つないんだから。木の根っこはいっぱいあって家に入るに大変よ』など、結果的に仕上げまでの諸作業がよくわからないような感じでした。作者といろいろ話をしてとても喜んで作者の家の電話番号を聞いたり家の場所を聞いたりしていました。奥さんもとても喜んで『やっどあの根っこが減りそうね』と言いながら、カメラを取り出し、私達と旦那さんと一緒に撮ってくれました。

私が旦那さんに「明日から流木に一日中取り組みますね』と言うと、『まだ仕事をしているから休みくらいしかできないなー』『もうこの人、70歳になるのよ。みんなに言われるの、働かせすぎって。私が悪く言われるの、いつも』『それは立派なもんですよ、働けるうちは働いたほうがいいですよ』『いつも私が悪者よ』。

『まあ旦那さんにせいぜい優しくしてあげて下さい』と言うと何を勘違いしたのか、『もう夜はようないよ』と言って展示館を出て行きました。

(2011年12月29日)

何はともあれ、今年もなんとか乗り越えた

何と言いましょうか、決して大げさとは思はないけど、今年も何とか一年を終えることができました。私はとにかく不健康のため何をやるにしても自分一人ではできることは極めて限られます。出かけるのはもちろん買い物も外食も病院もとにかく自宅以外のところでの対応はとても自分一人では出来にくいもので、とても行動範囲は限られます。それでもお陰さまで何かとお世話をさせていただく方が何人かいて、時に応じてお願いしたりします。こんな状況でギャラリーをやっているなんてとんでもないのかもしれませんが、こうして今年も毎月展示会もできました。本当にありがたく、まさに感謝そのものです。

私は半年単位くらいで自分の出来ることを見極めながら日々を送っています。そして今年も何とかということなんです。正直言って先々のことを考えると日本の国事情のようにお先真っ暗で、何とも言いようありません。かといって今のうちにお金も使いながら思うことを出来るだけやってしまおうとも思わず、まあ淡々と過ごしているわけです。来年も今年のように過ごすことができたらいと思うわけですが、見通せないということはとても不安定なものです。まあ、やけにならずに一日一日を着実に過ごしていくしかないと思います。そして応援してくれる方の力を借りて生きて行きます。

(2011年12月31日)

居場所がない、困っちゃう

正月なんだよね、困ることがある。

子供たちが来たりして、それはありがたいことなんだけど、私の居場所がなくなるんだよね。私は家にいるときはギャラリーか家の外での作業をしています。夕方から家の中でこうしてブログをやったりギャラリー関係のことをやったりするわけですが、その場所が今まで子供たちが使っていた部屋を私の仕事並びに知り合いとの交友の場あるいは寝る前の安らぎの部屋にしています。

6畳二間あって洋間と日本間になっています。洋間で作業をします。日本間は交友などに使います。まあ比較的居心地のいい部屋なんです。トイレも風呂も洗面所もすぐ隣にあって、台所にも近く何かにつけて都合がいい部屋なんです。

ところが子供たちが来て泊まったりすると、その部屋をすべて占領されるわけです。他にも部屋はある訳なんですけど、常にはほとんど使っていないので、その時だけ使う気にもなれず、とにかく私の商売道具はすべてその部屋にあるので他の部屋に行っても何一つできないわけなんです。もう固まっているしかないわけなんです。

今年もその日が来ました。どうしようかなって思うわけです。子供たちとそう話をすることもないし、話をしたところで全く相手にもしてくれないし、ひっくり返ってテレビを見ていることも好きではないし・・・。今日も早めに風呂に入って寝るしかないかなって思います。

ところで明日はどうか。

(2012年1月1日)

やっと自分の部屋が戻ったと思ったら

まあやれやれやっと子供たちが帰った。今日は久しぶりにマイペースで過ごすことができました。JAに行って新年早々にお金をおろしました。さすがにお客も少なく待つことなく済ませました。子供名義の定期預金があったので解約をしようと手続きをすると娘名義の通帳が旧姓になっていて、もう結婚しているため私の姓名義が現在の姓名義に書き換えられました。よって私の印鑑ではどうすることもできず、必然的に娘に通帳を渡して解約するしかないとのことで、どうも釈然としない感じで帰ってきました。私が通帳を持っていてもどうすることもできないわけです。金額も結構あって私の預金総額の中に入っているわけです。

私は国債に切り替えようと思っていたわけなのですが、予定が狂ってしまって・・・。気を取り直して去年の書類などを整理して、しばらくの時間を過ごしました。一年分の領収書から通信分などくちゃくちゃにしてあったので一応整理したわけです。結構面倒で途中から手抜き三昧で済ませました。

何はともあれ、なんとかきりにしてやれやれという感じで犬の散歩に行こうとすると、車が入ってきました。何と娘たちです。『何だね』と言うと『ちょっとね』と言って家の中に入ってきました。娘たちは暮れの30日、31日、本年の1日、2日と毎日のように来ています。また今日も・・・。私はまたペースが狂います。

(2012年1月4日)

知り合いと久しぶりに昼間から酒を飲みながら話をしました。比較的気の合う方なんですが、時によって思いが食い違ったりすると、かなり厳しい態度をとられることもままあったりしました。が、時間が修復してくれたりして、何とか関係が続いているわけです。

お酒の嫌いな方ではないので、まあそれなりに楽しい時間も過ごせます。今日も世間話をしながら政治の話になって行きました。私も今の政治状況は極めて厳しいものを強く感じています。このままではこの日本はどうなってしまうのか、先々の見通しは国の見通しが無い中で一般人として自分のこの先を見通すなんてできるわけもないわけです。まあそんな話の中で、このような社会になったのは国民（有権者）の責任は大きいと私は思っているわけです。

その考えを述べたところ、その方は「国民には全く責任はない、全て約束を守らなかった政治家にある」とのことで、考えに全くの違いが出たわけです。私はやはり政治家、政党を選択した責任は免れないと思うし、まして投票率30パーセント台の選挙がまかり通るなんて有権者は何を考えているのかといつも思うものでした。そんなことで何か大ごとになって大騒ぎするのはおかしいと思うわけです。今の日本を作ってきたのもかなりの部分は国民の選択によって進められてきたんじゃないのでしょうか。その方は『国民がそんなに色々考える力はない、政治家の政党の公約によって投票するしかない、その公約を破って来たのは政党でそこにまでは有権者はどうすることもできない』と言われるわけです。

しかし、私は本当に有権者が真剣に将来を見据えた選挙をしてきたならば今の日本はこんな厳しい状況にはなっていないと思っています。何度かそんな話を繰り返しているうちに、その方は迎えの車を頼んでさっさと帰られてしまいました。私は何度かそのような状況を体験しているので、静かに送って、後片付けをしました。残り物が結構出てしまって、もったいなかったと思いました。

（2012年1月5日）

展示館のリフォームをすると言ったけど

今月は展示会の予定はありません。

「一応内外のリフォームをするために休みます」なんて言っただけなのに、全く手も足も出ない状況で、あっという間に何日かが過ぎてしまいました。なんせ専門屋さんに頼めるほどの余力もないので自分でやるしかないわけで、頭の中では改造の図面らしいものは多少はあるのですが全く手も足も出さず気力もなく、自分ながら困ったもんだと思うわけです。

構想は入口の壁面を竹で覆ってみたい。そして内部も窓が4か所ある訳ですが、そのうちの2つの窓を竹で覆ってみたい。それから外部の壁面の一部も竹で覆ってしまおうと考えています。とにかく竹三昧にして、今以上に田舎っぽく野暮ったい感じにしたいと考えています。幸いに竹の材料も隣に竹林があって今切り出していますので、よさそうなものを頂くようになっていきます。

このまま何もせずに二月を迎えるわけにもいかないわけで、何とかエンジンをかけないと思ってもさっぱりです。とにかく面倒なんですよ。それになんてたって寒いのはまいります。ポケットから手を出さずともう冷たくて冷たくて、それに外仕事と来てるわけで、とにかく寒く、ただあたりをふらふらしているうちにもう夕方になる訳です。家の雑事もあつたり外出の用事も結構あつて。まあ何とかかなると……。何をやるにしてもこんな具合です。そして切羽詰まってあたふたして突貫工事になって、大変な仕上がりになる訳です。それでも人は『うまくできてる』とか「自分でよくやったね」なんて言ってくれるわけです。このたびもそんな風になりそうです。

明日は竹を運びます。

(2012年1月6日)

「日曜日は仕事だからな、いつものように来いよ」と伝えたのに、10時を過ぎても来る気配がない。私の車の運転手。

私は目が悪くなってしまったため、しばらく前から車の運転をある方に頼んでいます。その方は私が仕事をしていた時から車の運転をさせていただいているので、ずっと前からの付き合いになります。10年もの期間になります。今までこのようなことは一度もなかったのに、一体どうしたことかと思ったりしますが、とにかく今日は来ません。おそらく日を間違えたのだと思いますが、今日は重要な訪問があってとても困りました。結局先方などに連絡を取って、なんとかその場をしのいだ格好になりましたが……。しかし、たった運転手が予定どおりにならなかっただけで、私の場合は全く予定へちまもなくなってどうすることもできない実態を改めて考えさせられました。バスを利用するにしても、目的地近くに行っても玄関横づけと言うわけにはいきませんし、第一私の住むところは山間地のためバスは一時間に一本くらいしかありません。何にしても不都合なんです。

しかし、この先いつまで運転をお願いできるのか分かりませんし、『明日でもう終わり』って言われても不思議はないわけなんです。10年間の実績がこの先も続く保証は全くありません。またほかの方にお問い合わせ出来るかも定かではありません。足がなくなった場合のことをしっかりと考えて、それなりの準備もしておかないと本当に路頭に迷うと思います。どうすべきか？ その時は私は何をどのようにしていけばいいのか？ 早く決めておかないと、と強く思います。朝から酒でも飲んでテレビを見たり音楽を聞いたりひっくり返っていたりはいつまでも続かないし、困ったものです。

(2012年1月8日)

うまい酒が飲めそうだえ

新年の顔見せに出掛けました。数軒目のお宅で話が弾みました。何だか知らないうちによくある老後の話が出たんだよね。話の内容はまあ想像の範囲で、どうみても楽しいような話にはなる訳もないわけです。

その方は静岡県の富士山のふもとに別荘なんか持っていて結構リッチな感じなんです。奥さんも途中から話の中に入ってきて少し硬めの話になってきました。「子供も当てにならないし、お金をしっかり貯めておかないとね』とお金の話になりました。私からすると今でもそれなりの蓄えはありそうな風に見えるので、「まだ貯めるなんて。ほどほどでいいんじゃないかな」って言ったのですが、「ダメダメ貯めなきゃ」って。私は貯めようにも年金100%でとても足りないの、少しばかりの蓄えを切り崩して日々を送っているわけですし、蓄えどころではありません。

話をしているうちに、とてもこの会話について行けそうもなくなったので『先々のことは何とも分からないからせめて今いい酒でも飲んでおこうと思って正月は奮発して高めの酒を飲んだし、まあこの先もそんな感じでやって行くかな』と言うと、『山形のうまい酒があるから飲みにおいでよ』と言ってくれました。

私は『こりゃ正月からいい話が出てきた』と思いましたが、すぐに「ごちそうに上がります」と言いたいのももったいずけて、「また帰って電話するよ」なんて言ってしまいました。相手の気が変わらないうちに早く電話しないと、山形の銘酒を飲みはぐれてしまいます。どんな酒か楽しみです。

(2012年1月9日)

また死人が出た

また死人が出た、と言ってもごく普通の訃報なんだけど、いずれにしても葬式なんだよね。まったく訃報かお見舞いかで、もう結婚したとか子供が生まれたなどの目出度い話は全くないんだよね。

私の住んでいる区域には斎場が三つもあるんです。人口もとても少ないんだけど三つもあるんです。それが結構使われているようで、新聞の訃報欄をこの頃よく見るんだけど、こんな山間地なのに度々載っているんです。結局高齢者がとても多いうことになります。

私の地域はほとんどが高齢者です。60歳以上が60%以上なんだよね。それに子供は全くいないって感じで、高校生が数人なんか要る程度で、皆50歳台以上なんですよ。大変です。

10数年前まではこんな風ではなかったんだけどね。もうどんどん若者たちがどこかに行ってしまうって、残ったのは皆親世代で、おのずと子供など要る訳がない状況になってしまって、一体この先どうなっちゃうんだらうね。世間話も弾まない話ばかりになってしまって・・・。

おそらく日本の都市部以外のほとんどはこんな具合だろうと思います。どこでどう狂ってきたのか？ とにかくこの実態はかなり厳しいものがあります。

(2012年1月10日)

先祖は平民だった

我が家の家系を調べていたところ、明治の中頃までしか公的機関の戸籍台帳から調べることができませんでした。それ以前はもう資料がないとのことで、後はお寺の過去帳で調べるしかないようなのですが、当家のお世話になっているお寺さんは昭和の初めに火事になり何もかも焼けてしまって、過去帳は近年のものしかありません。我が家のルーツであろう所は確認してもわからないとのことで、明治以前の事を調べるのが難しい状態にありました。

ところがある日、我が家の分家にお邪魔したところ、その明治以前の戸籍があったわけです。私はびっくりしてその資料をコピーさせていただきたい旨、話をしておきました。今日、たまたま時間がとれたので、早速その資料のコピーをすべく分家にお邪魔しました。色々な資料がいっぱいあって、私は是非都合のいい時に見せていただきたい旨を話しました。多くの資料の中から、さしあたって私の目当ての戸籍簿を捜しました。「あった、ありました」。それはとてもしっかりした資料で、痛みもなく、文字も鮮明でとてもきれいでした。さっそくコピーをしました。その中に『平民』と明記されていました。その時代は平民と言う位があったのでしょうか。時代は文政と記載されていました。またこの先をたどることができます。

(2012年1月11日)

親切な駅員さん

今年初めて、三島に行きました。2~3カ月に一度漢方医に行きます。今日はこの頃では一番寒いとの予報どおり、とても厳しい一日でした。それでも寒さに強い私は、さほど気になることもなく出掛けました。ローカル線の駅で切符を買いました。電車の発車時間がもうすぐでした。私はあわてて切符を受け取り大急ぎで電車の待つホームに向かいました。線路を横切っていると、後ろから駅員さんが追いかけてきました。「お客さん忘れ物、忘れ物」と言っておつりを持ってきてくれました。私は笑いながらおつりを受け取りました。

電車は私が乗るのを待って発車しました。ローカル線の終点から新幹線に乗り三島に着きました。三島の駅もどこの駅と同じように北口と南口の出口があります。私の出口は南口ですが、今日は北口に行ってしまいました。南口は切符のチェックが二度ありますのですぐに間違いが分かります、北口に出て『コリヤー間違えた』と気がつき、すぐに駅員に頼みました。駅員はすぐに対応してくれました。そして元の通路まで付いてきて、私を案内してくれました。本当に親切で、とても気持ちがよくなりました。

昔の国鉄だったとすると、こんなわけにはいきません。間違えたものならひどくつつけんどんな扱いで、あごで「あっちにいけ」って言われたり、『あっちってどの方向です蚊』と聞けば『あっちだろ』。たぶんそんな扱いで何度も頭をバツタのように下げて教えてもらったと思います。本当に今日の駅員さんはスマートでとても印象がいい。やはり公的機関は民間をますます見習って、かつ、しっかりしないとイケません。そして民営化出来ることはどしどし民営化しないとイケません。公的機関の職員を民間会社に数年間派遣なんてのもいいのでは、と思います。今日はいいい一日でした。

(2012年1月12日)

あぶらげ（油揚げ）

私はあぶらげが好きです。特に焼いたものが特別にうまい。それも焦げる寸前のものに生姜を乗せて熱いのをパリパリと食べます。あぶらげは昔ながらの大ぶりで肉がうんと厚いものではないとよくないのです。今はほとんどのあぶらげはぺらぺらで小ぶりで吹けば飛んでしまうようなものが多いと思います。

私の家の隣は、昔からの店です。昔は何でもありました。駄菓子、漬物、総菜、食品、酒、文房具、針金などなど、所狭しと置いてありました。そうそう、居酒屋まがいの事もしていて、仕事終わりの男衆が立ち寄ってコップ酒を豆腐をつまみに飲んで勢いをつけて、よろけながらそしてレロレロわけの分からないことを大声で話をしながら自転車やオートバイに乗って家に帰るのを、よく見かけました。もう遠い過去の事です。今ではお酒と日常の食品とお菓子を少し置いてある程度です。その中に私の好物のあぶらげがある訳です。私はあぶらげを切らすことはありません。常に冷蔵庫に何枚か置いてあります。そして食事のおかずがいまいちの時や酒のつまみがいまいちの時などに、自分で焼いて一人で食べます。あぶらげは私にとって食事の非常対応品。また、酒のつまみの非常対応品です。今日も手持ちが少なくなったので買ってきました。よってあぶらげがあれば、私はどんな状況でもおいしく食事や酒が飲めます。怖いものはありません。

（2012年1月14日）